

奈良県立医科大学 学報



CONTENTS

理事長就任挨拶	1
卒業式式辞	2~3
新たなる旅立ち	4
退任挨拶	5~7
法人の新しい組織	8
役員、経営審議会、教育研究審議会名簿	9
就任挨拶	10
保育園開園／人事異動	11
部局長就任挨拶	12~13
平成24年度予算について	14~15
学事計画	16
学位授与／入試結果	17
サイエンスイノバル研究奨励賞受賞／東日本大震災追悼行事	18
国家試験結果	19
クラブ紹介	20
図書館だより	21
産学官連携だより	22~23
附属病院から	24
看護部から	25
中島佐一学術研究奨励賞／女性研究者学術研究奨励賞	
ハラスメント防止研修会開催／同窓会開催予告	26
レポート／公開講座開催報告	27
メディア掲載情報／下ツ道／広告	28

April
2012

vol.40

理事長就任挨拶

理事長・学長 吉岡 章

第2期中期計画の策定中のこの時期、理事長・学長として公立大学法人奈良県立医科大学の更なる発展に尽くすようにとの温かい信任を受けました。引続き絶大な御支援を賜りますようお願い申し上げます。

私はここに本学が20年後には「全国医学部医科大学のトップ10」入りを目指すことを宣言します。「トップ10とはなんとも荒唐無稽で身の程知らず」との誇りを受けるかもしれませんが、これは単なる夢でもスローガンでもなく、実現可能な目標であります。

創立67年の本学は、医師5000人と看護師4000人を輩出し、卒業生は地域医療者のみならず、高い水準の研究者・教員・医師・看護職として広く活躍中であります。一方、毎年、優秀な学生が入学しています。附属病院の経常収益ですでに国公立大のトップ10に入っており、潜在的な実力はそれに匹敵するものを持っています。

私は大学の経営と運営基盤のさらなる健全化を図り、予算と人材の適正配分と配置に努めます。建設中の（仮）中央手術棟の整備を着実に進めると共に、教育部門、一部研究部門と本部機能の県農業総合センターへの移転計画を推進します。

本学に課せられた地域への貢献という大きな使命については、新しく「（仮）地域医療学総合研究所」を設立し、総合医を育成しつつ、わが国随一の地域医療学のロールモデルを構築します。また、奈良県・奈良医大にふさわしい産学官連携事業として「（仮）大和漢方医学薬学センター」を設立します。大手企業と伝統地場産業と本学、そして県・市町村との連携により、栽培から製造、処方、評価、教育、研究まで一貫した「地産地消」型の新しいタイプの漢方医学・医療の拠点を創設します。加えて、県、市町村と共に世界唯一の「住居医学（寄附）講座」を発展させ、本学附属病院を核としたICT環境下の医療・福祉・健康が一体となったまちづくりを推進します。

さらに、本学がわが国トップクラスの豊富な実績をもつ「血栓・止血・血管」領域をはじめ、各講座や各研究者の高度でユニークな医学研究と医療で、他に追従を許さないonly oneを目指し、総合力としてトップ10入りを目指します。



卒業式式辞 Live glocally!

学長 吉岡 章

医学部医学科57期生95名、看護学科第5期生92名の諸君、卒業おめでとう。

奈良県立医科大学の教職員を代表して心からお祝いを申します。

無事この日を迎えられたのは、諸君のたゆまぬ勉学と心身の鍛練、そして夢に向かっての向上心が大きく結実したものと、うれしく思います。加えて、厳しく、かつ、温かく指導して下さった教授・教官・職員の方々、さらに愛情に満ちた応援を惜しまなかった御両親・御家族そして友人のお陰であることも忘れて下さい。

医学科卒業生諸君の中で本学附属病院を中心としたプログラム、または、県内病院のプログラムを選んだ人は計52名で、近年では最も多い数字となりました。奈良県全体でみますと、研修医定員枠101名に対してその充足数は94名と熊本県に次いで全国第2位と高いものでした。

一方、看護学科の場合は全卒業生の26名が本学附属病院に、8名が県内医療機関に、合計34名が県内に就職します。この数字に私は納得していません。もっと本学に残ってほしいからです。これから本学は、看護学科学生の教育・実習の充実と環境の改善、そして、卒後の看護師としてのキャリア形成に従来にも増して大きな力を入れて参ります。どうか1人でも多くの卒業生が本学附属病院でキャリアを重ね、将来の看護指導者として活躍されることを期待しています。

さて、昨年3月11日の東日本大震災から1年が経ちました。

本学は地震発生当日にDMATを仙台市に送り、6月まで奈良県と連携して気仙沼市に医療援助を継続しました。8月には県の助成を得て、学生ボランティアが福島医大の学生と合流して汗を流しました。そして、学生ボランティアグループ 奈良ウィルは、この3月11日に福島医大生2名と和歌山医大生1名を本学に迎えて、メモリアル講演会と追悼燈花会を開催してくれました。

また、昨年9月には奈良県・和歌山県でも台風12号による大水害がありました。本県では24名もの死者・行方不明者を出し、多くの住民が何日も孤立しました。これに対しても本学は義援金を募り、医療支援を続けました。

東北の大津波にも十津川村の山津波にも、多くの政治家や有識者やマスコミは「未曾有」の大災害と表現しました。未曾有とは「歴史上一度も起こったことのないこと」の意味です。しかし、東北三陸地方の大津波は決して初めてのものではなく、貞観11年(西暦869年)の大地震と津波で1,000人余の死者が出ています。その後何度も大津波が押し寄せ多くの犠牲者を出しました。明治29年の大津波では、死者26,360人(流失家屋9,879戸)、昭和8年では、2,995人(同3,885戸)と記録されています。それらの生々しい被害状況は、作家 吉村 昭氏の「海の群」(1990年)(文庫本「三陸海岸大津波」(2004年))に冷静な筆致で詳しく書かれています。





一方、十津川村での明治22年の台風による大水害では、深層崩壊による山崩れが1,080か所で発生し、168人もの死者が出ました。これを契機に村民2,691人が北海道に移住し、「新十津川村」が作られることになったのです。

このような、多くの大災害の記録があるにも関わらず、歴史が十分には活かされなかったのです。しかし、歴史を教訓として十分な対策を仮に立てていたとしても、果たして、今回の大津波や山津波を回避できたでしょうか？ Noであります。そこには人間の知恵と力ではどうしようもない、「自然の驚異」という大きな壁があるのです。私達はこの自然の強大な力の前には無力であることを悟り、自然に対する畏敬の念を改めて持ち続けた上で、可能な限りの対応をすることこそが今回の大災害の教訓ではないかと思えます。

私は昨年の3.11直後の卒業式で、「私たちは決して一人ぼっちではない」と語りかけました。本学学生諸君と教職員は、大震災・放射能汚染や大水害という深刻な事態を真正面から見据え、出来る様々な援助を行い、心の絆について感じ、考え、行動をとってくれました。この経験は、これからの卒業生諸君の生き方において抱くべき「自然への畏敬の念」と共に「人を思い遣る心」と「困難に立ち向かう勇気」を与えてくれたものと確信します。

どうか諸君、あなた方の本学での最終学年となった2011年には、東北でも奈良でも大災害のあったことを忘れないで下さい。そして、日本中、世界中の人々が支援に立ち上がったことを決して忘れないで下さい。

諸君に錢の言葉を贈ります。

諸君は「glocal」という言葉を知っていますか？「glocal」とは、全世界のとか地球規模のとかの「global」と、地域のとか地元のとかの「local」とを合成した新しい言葉であります。私からの贈る言葉は、

Think globally, act locally, and live glocally! です。

「Think globally」：どうか諸君は常に志高く地球規模で物事を考えて下さい。「act locally」：どうか諸君は医師として看護師として地域のために地元のために活動して下さい。「and live glocally」：どうか諸君は責任ある社会人としてglocallyに生きて下さい。

諸君の長い人生の旅の御無事と、医師として看護師としてのそれぞれの旅の豊かならんことを祈ります。

新たな旅立ち

医学部卒業式 平成24年3月15日、大学院修了式 平成24年3月16日

今年も209名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。(209名:医学科95名、看護学科92名、大学院博士課程15名、同修士課程7名)

また、式の中で、次の三つの賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

◆奈良県立医科大学学長賞 医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者



医学科：矢野 裕己やの ひろき

「絆」

これは、財団法人日本漢字能力検定協会から2011年に発表された今年の漢字です。昨年は東北地方太平洋沖地震が日本を襲い、ニュースなどで状況を知らされる度に言葉を失いました。私はそれまで絆を意識したことはほとんどなく、当然のように考えてしまっていました。しかし今回、私なりに絆について考えてみました。すると、私の周りにも多くの絆があることを改めて気付かされ、皆様への感謝の気持ちが込み上げてきました。それは、家族との絆、先生方との絆、先輩後輩や同級生との絆、そしてこれからは患者さんとの絆です。学生時代の実習において、ある先生から「学生のうちに学ぶのは医学だが、医師になったら医療をしなければならない。」と言われたことがあります。その先生は、医学的なことだけでなく患者さんの背景も考えなければならない、という意味で医療とおっしゃっていました。まさに患者さんとの絆です。先日、私達は奈良医大での6年間の学生生活を終え、4月からは一医師として、一社会人としての生活が待っています。最初からいきなり医療をできるとは思いませんが、患者さんの絆に配慮できるような医師になれるよう、そして少しでも早く医療をできるよう精進していく所存です。

最後になりましたが、今までお世話になった先生方、先輩、同級生、後輩そして家族に心から感謝致します。皆様の支えがあってこそ、ここまで頑張ることができました。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



看護学科：中角 友紀なかつの ゆき

この度は学長賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございました。

希望と夢に胸膨らませながらも、不安でいっぱい入学式がつい先日のこのように思い出されます。この4年間はとても濃く、充実した毎日を過ごすことができました。

実習やレポートなど様々な課題をこなすことに精一杯で、つらく、くじけそうになりながらも、そんな時は学友たちの頑張っている姿に幾度も励まされてきました。また、実習で様々な先生や看護師、患者様との関わりを通して、初めは受け身であった実習も、徐々に積極的に取り組むことができるようになり、改めて看護の難しさを痛感すると同時にやりがいや喜びを感じられるようになりました。

ここまで頑張ることができたのも、お世話になりました先生方や先輩、後輩、家族、日々苦楽を共にしてきた同級生の皆様の支えがあってこそだと思っています。心より感謝しています。

今、卒業という一つの節目を終え、私たちはそれぞれ新たなスタートを迎えます。私は養護教諭になるという夢に向け、進学という道を選択しました。奈良県立医科大学で学んだこと、皆様との出会いは一生の宝物です。これからも感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって日々邁進していきたいと思えます。

◆いつ かししょう 医学科同窓会厳檀賞、はな かししょう 看護学科同窓会華檀賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者(ヒーローオブザクラス)
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳檀賞：松浦 秀記まつら ひでき 綿引久美子わたびき くみこ

小川 真奈おがわ まな

華檀賞：小佐 裕子こさ ゆうこ 北尾 一樹きたお かずき

岩井 宏史いわい ひろし

◆奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞 甲学位論文申請者のうち、最も優れた論文の申請者



岡田 定規おかだ さだのり

この度は名誉ある賞を頂き誠に光栄に存じます。奨励賞が、名の通り今後も研究に励むよう期待を込めて頂いた賞であるという意味では、その責務に身の引き締まる思いです。

私は医学部卒業後、市中病院で5年間の臨床医生活を経て平成19年に大学院に進学しました。進学のきっかけは、日々の臨床では忘れがちな疾病の背景をみる基礎的な思考を身に付けたいという思いからでした。大学院では、私の臨床医としての志向である糖尿病と循環器病の関わりについて基礎研究と臨床研究の両方に携わることができました。在学中に京都大学に国内留学する機会も頂き、良き指導教官と研究室のメンバーに恵まれたこともあって、充実した時間を過ごすことができました。大学院での生活は、私の科学・医学に対する考え方を大きく変えたと感じています。

さて、本賞を頂いた学位論文は、本学だけでなく熊本大学・京都大学・全国の多くの実地医家の先生方にご協力を頂いた臨床研究(通称：JPAD研究)のサブ解析です。ご協力頂いた先生方にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。また、私の研究仮説を全面的に支持してくださり、丁寧に指導頂いた齋藤能彦教授に感謝いたします。最後に、独断で大学院進学を決めたにも関わらず、私の身勝手に付き合い、支えてくれた家族に感謝します。

退任あいさつ

病院長退任に当たって

理事 副学長 附属病院長 榊 寿右



本年3月末で大学を去ります。昭和61年に講師として大学に戻らせていただき、平成2年7月本学の教授（脳神経外科学）を拜命して以来、約25年の歳月が流れました。本学附属病院長には、平成13年1月から14年3月までと、本学が独立行政法人化した平成19年4月から本年末までの2回を引き受けさせていただきました。法人化後の病院長は専任とのことで、脳神経外科教授を退任致しました。この25年の間には、大学にも私自身にも色々なことがありましたが、その全てが本年4月から、わたしにとって、過去の思い出となります。

時の移ろいはアナログからデジタルへと変化致しました。電子カルテの導入によって“医師として患者を診ることの基本は、まず患者に向い合うということだ”と言う事を、若い医師に忘れさせたようにも思います。先日、何も知らずにタクシーに乗ったら、その運転手が気安く“先生、元気ですか”と声をかけてくれました。誰かと思ったら、多くの人を雇って“ワキタ”という学会発表用のスライドを作る会社を営まれていた写真屋さんでした。“色々悩みましたがこうしているのが一番楽ですわ”と話されていました。

わたしの最も好きな言葉は、土佐勤王党を率いた幕末の志士、武市 瑞山の“花は清香に依って愛され、人は仁義を以て栄ゆ”という言葉です。“人の心を察し、人を思いやり、そして正義を貫くこと、道理に順じる事こそ人の栄える道だ”と説いています。

かくすれば かくなる事と 知りながら
やむにやまれぬ 我が愚かさよ 我笑

退任にあたって

理事 米田 隆史



昭和50年に県職員として採用されて以来37年、よく「光陰矢のごとし」と申しますが、特に奈良医大にお世話になってからの2年間は、またたく間に過ぎてしまいました。今その思い出が頭の中を巡っています。就任早々赤字予算が組まれていることにまず驚いたこと（教職員全員の努力により黒字決算となりましたが）、「(仮称)中央手術棟」の着手、「なかよし保育園」の改築など私にとって貴重な経験をさせていただきました。

また、いろいろな意見を聞く中で県民の本学及び附属病院の役割に対する期待が大きいことも痛感しました。

今後、教育部門の移転も本格的に議論され、本学を取り巻く環境の変化は大きくなると思いますが、本学の発展のためにはこの機会を逃さないように慎重かつ大胆に行動する必要があります。

あると思います。

役員、教職員の皆様には、本当にお世話になりました。特にこうしてつつがなく退任を迎えることができましたのも、わがままな私を支えてくれた優れたスタッフに恵まれたおかげと心より感謝をいたしております。

最後に皆様のご健勝とご活躍を、そして奈良医大の益々のご発展をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

退任にあたって

副院長 看護部長 正木 幸美



本年3月31日をもちまして定年退職することになりました。昭和50年に奈良県立医科大学附属病院入職後、37年間奈良県でお世話になり、大過なく勤務することができました。特に最後の2年間で看護師としてスタートし成長させていただいた奈良県立医科大学附属病院で、副院長・看護部長として勤務したことは感慨深いものがあります。7：1看護体制の導入と維持、病院機能評価受審、バースセンター開設など多くの課題を乗り越えられたのも、看護部はもちろん皆様方のご協力とご支援の賜物と感謝いたしております。

奈良県では2010年に「奈良看護」という言語が創設されました。豊かな知識、確かな技術と、奈良という地域に古来より受け継がれる優しい心を融合した新しい価値の創造です。私たちが看護の力を実感でき、仲間同士で支え合いながら専門職としての誇りと情熱をもって、生き活きと働ける職場にしたいと思いつけた2年間でした。これからも「この病院、この看護師さんで良かった」といってもらえる看護部であってほしいと思います。

最後に本学のご発展と皆様のご活躍をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。

クモの糸で奏でるヴァイオリンの音色とともに退任 化学教授 大崎 茂芳



本学に赴任して13年近く経ちました。最初の頃、景色が霞んで見えるので視力が急に衰えたのかと思い、校舎の屋上から周りを見渡しますと、もともと霞の多い地域であることが分かってきました。これとともに、奈良盆地（国中：くんなか）は台風や地震には比較的縁のない地域であることに私は驚いたものでした。「やはり古代に都のあった地域の人々の気質は格別に穏やかであるに違いない」との思いを強く持ったわけです。ところが、赴任してからというもの日本中の大学を取り巻く環境が急に厳しくなってきました。そのため、日本の古い良き雰囲気を残している大学周辺にクモ採集に出かけることはあっても、ゆっくり歩いて歴史を味わう『ゆとり』などなかったのが心残りです。

私は、皮膚、骨、肺、血管などの生体組織におけるコラーゲンの配向性と運動機能の関係の研究とともに、クモの糸の物理化学的研究に携わってきました。赴任以来、中公新書や岩波ジュニア新書など4冊の新書を出版し、2006年にはクモの糸にヒトがぶら下がること、2010年にはクモの糸でヴァイオリンの弦を作ることに成功しました。2012年3月になってやっと世界の人々が「クモの糸の弦で奏でたヴァイオリンの音色は今までになく全く素晴らしい！」と認めてくれるようになりました。最後の時期に音色を味わいながらの退任ということになりました。長年の間、教職員の方々からいろいろな面で支えて頂いたことに感謝いたします。最後に、環境に恵まれた地域性を活かしつつ最先端の研究を目指される奈良医大の益々の発展を切に願っております。（大崎先生には4月1日付けで皮膚科学の特任教授にご就任いただきました。）

退任に際して思うこと

生理学第二講座 教授 高木 都



平成8年11月1日付で生理学第二講座教授に就任して15年余、橿原市に単身赴任をして、奈良県立医科大学における研究・教育に一意専心努力する毎日でした。奈良県立医科大学創設51年目でやっと誕生した女性の教授ということで、当時の奈良版の新聞記事にもなりました。そのことも励みにして日夜研鑽を重ねて参りました。基礎医学・臨床医学の多くのかたがたに助けられて、天職と思う仕事を定年まで勤める事ができたことは望外の喜びであります。感謝に堪えません。顧みれば、この15年間様々なことがありました。本学の独立行政法人化の際には中期計画部会長として全学の意見を集約しながら中期計画をまとめ、さらには初代の基礎教育部長を務めさせていただきました。ホームグラウンドの学会（生理学会）でも、国際生理学会や、将来計画委員会委員長などで、できる限りの貢献をしてきました。最後の4年間は研究に没頭し、ゴールへ到達しようと目論見ましたが、未だ半ばで定年を迎えることになったようです。

シナプスの生理学のノーベル賞学者エックルスは94歳で亡くなるまで生涯現役でした。私もあやかりたいものです。20年後のトップテンを目指すという本学のために微力ではありますが、今後もなにがしかの貢献ができればと考えています。

（高木先生には4月1日付けで分子病理学の特任教授にご就任いただきました。）

退任にあたり

病理診断学講座 教授、病院病理部 部長 野々村 昭孝



平成15年7月に金沢から、当時の国公立大学としては画期的な、病院病理部を包括した臨床講座である病理診断学講座の初代の教授として着任し、この3月末で定年退職する事となりました。8年9ヶ月という短い期間でしたが、皆様方には大変にお世話になり、心からお礼を申し上げます。“奈良には病理専門医が少ないから、1人でも多くの病理医を育てて欲しい”と当時の吉田修学長に最初に言われた言葉を肝に銘じ、勤務してまいりました。しかし、皆様方のご期待に十分応えることができたかどうか自問自答している次第です。赴任当時の講座は私の他に病理専門医は1名のみでした。それと比較すれば、現在は教官5名全員が病理専門医・細胞診専門医で、他に専門医研修の医員1名、非常勤とは言え病理専門医

2名と口腔病理専門医1名が所属する教室になりました。また、長い間の懸念であった病理部との関係も大幅に改善され、その密な連携体制も確立して意思の疎通もはかられ、病理部技師と講座教官の向上心はともに大変に高く、病理診断学講座としての基盤は出来たと感じております。さらに、今後教室員が多くなれば病理診断学のメッカとなる可能性を持つ講座であると思っています。病院病理部・病理診断学講座ならびに奈良県立医科大学の益々の発展を祈っています。有り難うございました。

退任にあたって

泌尿器科学 教授 平尾 佳彦



本学卒業以来40年間、本学泌尿器科学に在籍し、先輩・同僚・後輩の暖かいご支援を得て、退任する日を迎えることになりました。入局当時の泌尿器科医局は、怠惰な小生にとって、ある面では快適でしたが、同時に厳しくかつ剛胆な気風で叱咤を受ける日々を過ごしてきました。日常診療では疑問の連続で、何でやる、もっと良い方法はないのかと模索の連続でした。もっと楽な方法を聞こうと質問すると、答えは常に予想していた最も回避したい方策でした。臨床上の課題の解決を目標に、小さい腎細胞癌ではマイクロ波凝固器を用いた無阻血腎部分切除術を開発し、患側腎温存手術を確立しました。膀胱癌では癌細胞を励起さす光力学診断を経尿道的腫瘍切除術に導入し、この手法を細胞診に応用展開し、選択的癌細胞採取機器を開発しています。また、排尿機能検査ではカプセル型膀胱内圧測定機器や携帯式尿流量率計を開発し、無拘束で日常生活動作を反映する排尿機能検査システムを目指して開発をしてきました。臨床現場が求めるニーズと産業界の多くの技術をマッチングさせることで、日本から新しい医療システムが発信できると信じ、本学における医工連携が一層推進されることを期待しています。

(平尾先生には4月1日付けで産学官連携推進センターの特任教授にご就任いただきました。)

今ふりかえって思うこと

成人看護学 教授 瀬川 睦子



平成19年に就任して5年、振り返ってみますと本学看護学科でのこの5年間は社会情勢と同じように私にとってはどちらかというところと激動の数年間であったように思います。19年度は独法化に切り替わり、看護学科は開設4年目の完成年度を迎えていました。早速4年次開講科目の看護研究概論、卒業研究等のシラバスについて議論に加わった記憶があります。60数年の歴史と伝統を誇る医学科と並んで、医学部の中に位置付けされた看護学科のBaseの部分形成し、これから積み上げていく責任の一部を担っていると認識しました。そして、本学看護学科ならではの課題に直面し、教員間のConsensusが得にくい、或はConceptionの共有が困難などのもどかしさも経験致しました。

Beyond Caring (ケアの向こう側)の著者、ダニエルF. チャンプリスは、「どうすることが正しいかは分かっているのに、組織上の制約により必要な行為の遂行が殆ど不可能な時、道徳的苦悩は生じる。」と述べていますが、個々のConceptを認知し尊重する環境づくりと大学組織のシステムにのっとなって進める上での課題が大きく、自分のおかれた立場で出来ることは何かを自問自答しながらの毎日でした。ともあれ任命された学生生活部会長・看護学科紀要編集委員長・医の倫理委員などを務めさせていただきましたが、ここまで大過なく勤務できましたのは学科の皆様はもとより、医学科の先生方や附属病院の方々、関係の皆様のご協力とご指導によるものと深く感謝申し上げます。看護学科は修士課程も開講の運びとなりこれからの飛躍に期待が膨らみます。大学の今後の益々のご発展を祈念し退任の挨拶とさせていただきます。

看護学教育は育めたか

小児看護学 教授 上本野 唱子



5年前の就任あいさつのタイトルが「看護学教育を育む」だったと記憶しています。はて、この5年の間に看護学をどの程度「育てる」ことができたのだろうかかと自問する毎日です。少子・高齢化、慢性疾患の増加に伴い、キュアと同じようにケアが求められ、その担い手としての看護師に期待されるものは年年高まって行きます。大学1年生が「高校4年生」と揶揄される昨今、分かりやすい授業をと、授業案や授業内容に工夫を重ねて来た日々を思い出します。また、附属病院、特に実習やその他でお世話になる病棟の看護師諸氏と連携をはかりたい、と願う気持ちから共同研究を行い、学会・誌上发表を行ってまいりました。その他、様々なことにも関わりを持たせていただきました。奈良医大という大地に播いた「看護」という種が発芽し、これから根付き、太くなっていくという矢先の退職です。順風満帆な日々を早々に期待することなく、今しばらくは逆風の中で「人生の修行」を地道にこなして行こうと心新たにしております。

これまで御縁のあった方々に深謝申し上げますとともに、本学の益々の発展を祈念致しております。

4人が名誉教授に

平成24年4月1日付けで4人の先生に名誉教授の称号が授与されました。

- 榊 寿右 附属病院長
- 大崎 茂芳 教授 (化学)
- 高木 都 教授 (第二生理学)
- 平尾 佳彦 教授 (泌尿器科学)



法人の新しい組織

組織の新設

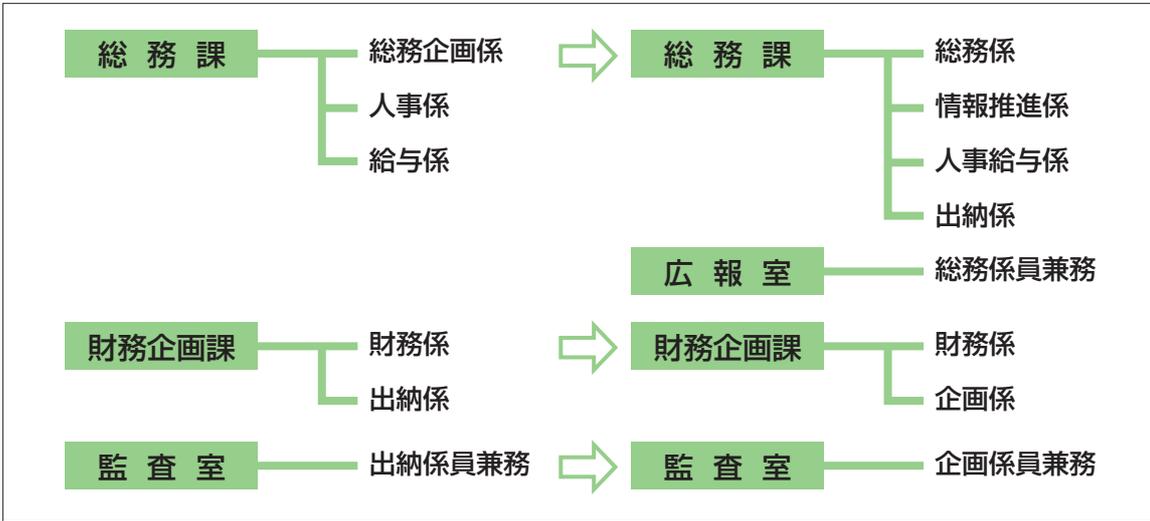
1. 「広報室」の新設
 ・ 広報機能を整備し、積極的・効果的な広報活動に対応

組織の再編

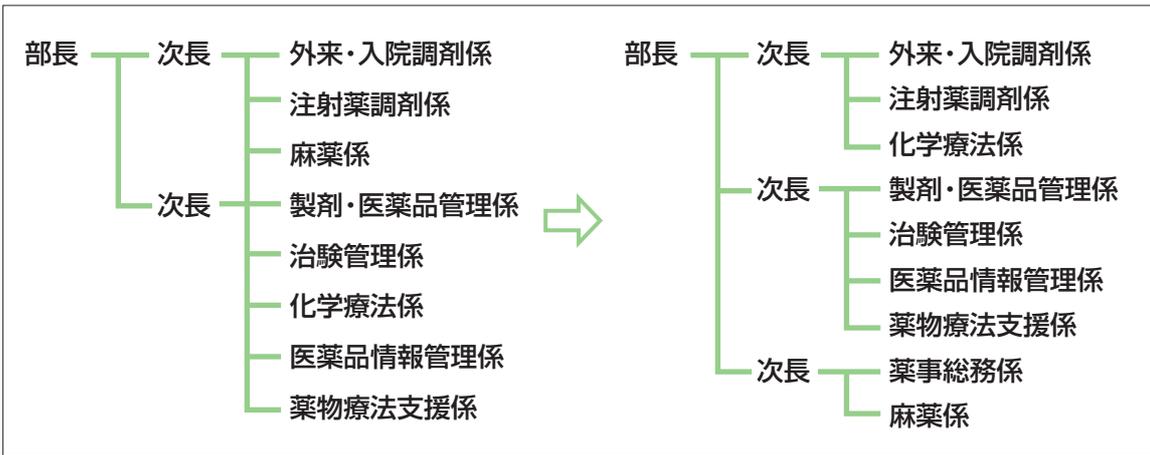
1. 保育園を法人内に組織化
 ・ 独立運営していた「なかよし保育園」を園舎の改築に伴い、法人内組織として配置
2. 法人企画部学務課の名称変更、機能充実
 ・ 学務のみならず学生支援、教育支援など教育に関わる事務の所管という観点から名称を変更
 ・ 入試制度改革に伴い、増大が予想される平成25年度入試業務に対応するため、体制を整える
 ・ 看護学科で直面する課題に対応するため、連絡調整担当を配置



3. 法人企画部総務課、財務企画課及び監査室の再編
 ・ ICT推進担当部門の設置、企画機能の充実、監査体制の公明化等に対応



4. 中央放射線部の組織強化
 ・ 地域医療連携室で行っていた画像の取り込み・書き出しの業務を担当
 ・ 検査件数の増加に伴うCT、MR部門にそれぞれ単独の係長を設置
5. 薬剤部における組織運営の充実と強化
 ・ 部の庶務的業務、学生実習の受け入れ、酸素・ガス類取扱い、手術部業務対応等を担当する係を新設
 ・ 治験強化、化学療法の充実、病棟薬剤師配置試行等に伴う管理体制の強化や実習受入れ対応等のために次長職を新設



役員、経営審議会、教育研究審議会名簿

役員名簿、経営審議会及び教育研究審議会委員名簿は次のとおりです。

なお、法人の情報はホームページ (<http://www.naramed-u.ac.jp/~aff/johokoukai/>) で公開しています。

【役員名簿】

職名	氏名	備考
理事長	吉岡章	学長
副理事長	橋本弘隆	(元奈良県副知事)
理事	喜多英二	教育・研究担当、医学部長
//	古家仁	医療担当、附属病院長
//	細井裕司	広報・渉外担当
//	大西峰夫	総務・経営担当
監事	伊藤一博	公認会計士

【経営審議会委員名簿】

職名	氏名	備考
理事長	吉岡章	学長
副理事長	橋本弘隆	(元奈良県副知事)
理事	喜多英二	教育・研究担当、医学部長
//	古家仁	医療担当、附属病院長
//	細井裕司	広報・渉外担当
//	大西峰夫	総務・経営担当
学外委員	相田俊夫	倉敷中央病院副理事長
//	川副浩平	聖路加国際病院 心血管センター長
//	澤田敏	関西医科大学常務理事
//	白井克彦	早稲田大学学事顧問 (同大学前総長) 放送大学学園理事長
//	松村理司	洛和会音羽病院院長

【教育研究審議会委員名簿】

職名	氏名	備考
学長	吉岡章	学長
副理事長	橋本弘隆	(元奈良県副知事)
副学長	喜多英二	教育・研究担当、医学部長
//	古家仁	医療担当、附属病院長
教育研究上の重要な組織の長	木村弘	附属図書館長
//	小西登	研究部長
//	飯田順三	看護学科長
//	平井國友	一般教育部長
//	車谷典男	基礎教育部長
//	福井博	臨床教育部長
//	軸丸清子	看護教育部長
学長が指名する理事	細井裕司	広報・渉外担当
学長が指名する委員	藤本眞一	教育開発センター教授
学外委員	池田康夫	早稲田大学教授

(敬称略)



就任挨拶

就任挨拶

理事 大西 峰夫



本年4月1日付けで理事（総務・経営担当）を拝命いたしました。校庭に桜が咲き始め、なかよし保育園の開所式、大学入学式に出席させていただくなど、年度の始まりを実感するとともに、気持ちを新たにしているところです。

さて、本学のあるべき姿を実現するための第1期中期計画は平成24年度で終了しますが、職員・関係者のご尽力により概ね目標を達成できる見通しとのことであります。

今後は、第2期中期目標を定め、これに基づき本学のさらなる発展・飛躍を目指していくこととなりますが、独立行政法人へ移行した本学にとって、次期計画を実施する今後6年間は極めて重要な時期を迎えることとなると考えられます。

このような時期に、こうした職に就かせていただき大変の引き締まる思いであります。

医療職場の経験もなく、微力ではございますが、皆様方のご指導、ご鞭撻をいただきながら、私なりに職責を勤めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

自信と誇り、やりがいをもって生き活きと 副院長 看護部長 大名 美記子



このたび副病院長兼看護部長に就任いたしました大名 美記子と申します。大役を拝命し、微力ではございますがこれまでの県立病院勤務や地域医療連携室での経験を生かし、病院方針の実現に貢献できるよう日々精進してまいりたいと思っております。看護師の役割が拡大する中で看護職へのニーズはさらに高まり、直面する課題も病院機能の充実や安定に向けた看護師充足にあると考えています。そのためには看護師一人ひとりの人材を病院全体で大切に育て、キャリア開発支援をしていくことが重要であると認識します。また、患者さんだけでなく、働く人々にも選ばれる病院になることも大切であり、患者さんと職員双方の視点から捉えた医療・看護の質を管理していくこともこれからの組織の課題と考えています。今年度看護部は3年後を見据えて「3年後のあるべき姿」を策定しました。病院、看護部理念に則り、看護実践へと結びつけられるよう看護部一丸となって努力してまいりたいと存じます。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

護部一丸となって努力してまいりたいと存じます。今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りたく衷心よりお願い申し上げます。

“健康管理センター”を育てて下さい

健康管理センター長 古西 満



本年4月1日付けで健康管理センター長を拝命いたしました。

健康管理センターは昨年度に設立され、本年度から専従医（センター長）を配置することになった、生まれて間もない組織です。そのため、学内での認知度がまだまだ低いのではないかと思います。

「労働安全衛生法」や「学校保健安全法」などの法律には、法人や学校が職員および学生の健康の保持増進と安全衛生の確保を図る責務をもつことが明記されています。本センターは、その責務を果たすための具体的な業務を実施する中心的な組織となります。しかし担当する業務が健康診断、職業感染対策、メンタルヘルス対策、職場巡視など多岐にわたるにもかかわらず、小規模な組織であり、十分に機能できない可能性があります。そのため、学内のさまざまな部署のご

支援を仰がなければ立ち行かない状況にあります。

是非とも、皆様方が暖かな気持ちで“健康管理センター”を育てあげていただきますことを心からお願い申し上げます。そして、全ての職員・学生が健康で安全に働き、学ぶことができる日が来ることをめざして頑張りたいと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

産学官連携センター 特任教授 大野 安男



この度、産学官連携センターの特任教授に選任され、着任しました大野でございます。

簡単ではございますが、自己紹介と抱負を述べさせていただきます。

これまで産業界（(株) エスアールアル、積水化学工業（株））で約30年間、診断薬や医療機器の研究開発に従事してきました。その間多くの大学等の研究機関と共同研究などを実施し、新技術・新製品開発、特許出願などに関わってきました。

また、直近の7年間は（独）科学技術振興機構の科学技術コーディネータとして産学官連携による創薬研究開発、医療機器開発などのプロジェクトを推進して参りました。

さらに、本学の専修生として在籍し、研究のご指導を受け平成4年に学位を取得しております。

今後は、大学の使命である教育・研究・診療活動の実績を一層活性化・発展させ、その成果を社会貢献する推進役として母校に貢献して参ります。具体的には、産学官連携の企画立案、共同・受託研究の推進、知的財産の活用、研究シーズの発掘・育成、外部研究資金の獲得などです。そして、国の科学技術目標の1つである「ライフイノベーション」に応える画期的な研究成果を創出させるため、皆さまとともに進んで参りますので、ご指導・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

「なかよし保育園」が大きくなり新しく開園しました!

4月1日(日)、事業所内保育所「なかよし保育園」の新園舎が竣工し、開園式を執り行いました。

当日、記念式典、プレート設置セレモニー、見学会などを行い、多くの方々にご参列いただきました。

新たに掲げられた園名プレートは、吉岡理事長・学長にその思いを込め書いていただいたものです。建設は、大和ハウス工業(株)施工によるもので、住居医学の成果を活かした特徴あるものとなっております。



【園の特色】

- ①空気中のアレルギーや有害物質を取り除く換気浄化システム。
- ②シックハウス症候群やぜんそくの発症を抑える働きのあるクロスを使用。
- ③食育指導により望ましい生活習慣を身につける。
- ④延長保育(午後8時まで)・土曜日保育(毎週)・夜間保育(毎週金曜日)
- ⑤安静室の確保。(登園後、体調不良になった場合、降園まで個別保育)
- ⑥就学前保育。(生後57日目～小学校就学前まで)



今後は、地域とも連携させていただきながら、運動会など様々なイベントを企画していきたいと思っております。

最後に、新園舎開園にあたり、皆様のご理解ご支援賜りましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

定員を18名から60名へと大幅に増やし(H24は40名)、お子様を預けていただきやすくなりました。

入園または見学を希望される職員の方は、下記までお問い合わせください。

なかよし保育園 内線2296
 総務課総務係 内線2206

4/1付け人事異動 法人企画部・病院経営部の転入・転出者

(法人への転入者)

理事(総務・経営担当)	大西 峰夫
総務課	
課長	大山 博司
課長補佐	大野 達也
人事給与係長	森田 英之
情報推進係長	砂川 亮一
嘱託	鈴木 節子
健康管理センター	
センター長	古西 満
なかよし保育園	
主任保育士	南 恵美子
財務企画課	
課長	奥田 晴久
研究推進課	
課長補佐	藤谷 威行
主事	岡本久美子
嘱託	西岡 廉純
産学官連携推進センター	
特任教授	大野 安男
教育支援課	
主査	小川 善久
主査	北森 千秋
主査	北林 義将
主事	瀧澤 裕興
嘱託	荒川 隆行

財産管理課

課長	後藤 淳宏
主査	木村 豊恒
技師	小屋 貴司
嘱託	和田 良則
嘱託	中野猪一郎
嘱託	池宮 久一
嘱託	松貫 浩
嘱託	松井 和正

経営企画課

課長補佐	畑 浩之
主事	松村 純子
嘱託	吉井 勇

病院管理課

課長補佐	吉田 一良
主事	川田 耕平

医療サービス課

嘱託	前川 安弘
----	-------

医療相談室

主査	尾上 宗良
嘱託	松村 成一

(法人からの転出者)

理事(総務・経営担当)	米田 隆史
総務課	
課長補佐	前 和之
主査	長尾 幹

財務企画課

課長	吉尾 博昭
主任主事	西口理恵子

研究推進課

課長補佐	岡本 真昭
主査	松岡 文恵

学務課

課長	森岡 道朝
主査	高田真由美
主査	吉川 浩志
主査	狩野 裕治

財産管理課

課長	木村 浩司
施設整備係長	井上 誠
主査	今西 康夫
主事	北川 貴夫

経営企画課

課長補佐	鶴谷 幸彦
主事	大谷 奈央

医療サービス課

課長補佐	米田 学
主査	治田 啓二

医療相談室

相談係長	山岡 正典
------	-------

部局長就任挨拶

医学部長に再任されて

喜多 英二



皆様方のご支援により、もう一期医学部長を務めさせていただくことになりました。厚く御礼申し上げます。

本学は吉岡学長のもと、この4年間多くの改革・新規事業に取り組み、着実に成果を挙げ、加えて経営改善努力と病院診療部門のご努力により、財政状況も好転してまいりました。第一期中期計画も概ねその目標を達成出来る見通しであり、念願であった看護学科修士大学院も無事認可されました。

現在本学では、20年後のトップテンを大目標に掲げ、より優れた学生確保を目指した入試制度、トップテン到達に必須である教授の選考方法、グローバルレベルでの教育・研究推進に向けたカリキュラム編成や講座のあり方など、積極的な改革に取り組んでまいりました。しかし本学には、克服すべき問題がまだまだ山積しております。大目標と現実との狭間で本学教職員が不満を募らせ、疲弊しないように、現況下の諸問への地道な取り組みも、医学部長の重要な任務だと考えております。

本学がトップテン入りするためには、教育・研究部門の充実・発展が不可欠であり、全教職員と力を合わせ、本学の更なる発展に向けて尽力する覚悟でおります。ご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

病院長就任挨拶

古家 仁



このたび附属病院長に就任致しました。本学が2007年に独立行政法人化して以来榊病院長の下、附属病院は着実に発展して参りました。在院日数の短縮、病床利用率の増加など公立大学附属病院としてはできる限りの効率化が図られてきており、病院収益も年々増加してきております。この状況はこのまま継続していった欲しいと思っておりますが、しかし効率化が図られてきた結果、医師、看護師はじめ病院職員の負担が増大し、その改善も望まれる時期にきていていると感じています。今回病院長就任に当たって、そういった点を考慮に入れた運営を考えていきたいと思っております。発展と共にその中から生まれてくるひずみ、病院ではその結果患者の不利益を生じる場合が多々あります。私は患者の不利益をできるだけ無くすように、医療の質の確保、医療安全、感染防止を念頭におき、その実現のためのチーム医療の確立をめざして諸問題に対処していきたいと思っております。これらの点は欧米ですですに取り入れられており、わが国でも多くの病院で取り込まれてきておりますが、本学はまだまだ後発組です。このために必要な部門の組織的な改革、重点的な配備なども必要と考えています。

どうか皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

附属図書館長就任挨拶

木村 弘



このたび、附属図書館長に就任させていただくことになりました。申しあげるまでもなく、昨今、情報ネットワークの進歩により、いつでもどこからでもコンピュータを通じて最新科学情報を入手することが出来る時代になりました。本学図書館は、電子ジャーナルをはじめ様々な情報をえるKey stationであると同時に、学内はもとより、学外、地域に向けて、科学情報を発信する重要な役割を担っています。これまで、教員・職員・学生の作成した学術成果、知的財産を蓄積し広く発信する機関リポジトリが構築されてきましたが、適切な文献検索や情報データベースの提供をさらに充実させるとともに、これら情報環境を進展させることは、本学の研究活動の飛躍のためにも重要課題と考えております。

一方、本を読む、文献を紐解くというのは、情報取得という行為のみに留まりません。これぞという論文、著書に出会った際には、得られる感動は奥深く、心を豊かにしてくれる力を与えてくれます。感性を深め、科学に対する好奇心を開拓するためにも、このようなアナログ的側面の重要性も大切と考えております。学生をふくめた若い世代の皆さんのためにも、感性を大切に、それを伸ばせるような図書館の環境作りも進めて参りたいと思っております。皆様のご意見を取り入れながら、職員の方々とともに取り組む所存です。どうか、ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

研究部長再任にあたって

小西 登



研究部長を引き続き担当させていただくことになりました。2期3年を振り返ってみて、本学の大学院、先端医学研究機構、産学官の3部門はいずれも厳しい状況におかれていることは、残念なことに大きくかわっておりません。とりわけ大学院と産学官の取り組みは他学に比べ相当遅れておりましたが、大学院については種々の整備が終わり、専門医コース併設がもう少し周知されれば、大学院生の充足と活性化につながるものと期待しています。また、産学官も昨年4月に産学官連携推進センターが開設され、特任助手とともに特任教授も4月から配置されることになりました。INPITの参与も引き続き参加され、昨年7月に刊行されたシーズ集とあわせ、やっとスタートラインに立てたという感じがします。ただ、一方ではイノベーション創出など社会は急展開をみせはじめしております。本年1月に刊行しました先端医学研究機構誌をみておわかりのように、本学の實力をもってすればこれらに十分対応可能と考えておりますが、この推進については本学職員・研究者はじめ多くの方々のご理解とご協力がなければなりません。ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

看護学科長就任挨拶

飯田 順三



4月より看護学科長に就任致しました。看護学科では本年度より大学院修士課程が設置されました。この新しく設置された修士課程を充実したものにしなければなりません。今や看護系大学は全国で200大学あり、大学院修士課程は120に及び、優秀な学生の奪い合いです。大学院の充実により優秀な学生を確保し、本学卒業生が本学の教員になることが期待されます。また本学が奈良県の看護教育・研究を先導し、リーダーとなる人材を育成すべきであると考えています。看護師のニーズが高い専門看護師コースの設置も検討する必要があります。

また喫緊の課題は本学卒業生の本学附属病院への就職率を向上させることです。病院看護部との連携をさらに強化し、卒前・卒後の一貫した教育・研修を行い、看護学生のニーズにあう教育を行う必要があります。看護学生のさまざまな悩みを真摯に受け止め、きめ細やかな対応が求められます。さまざまな課題がありますが、皆様方のご指導、ご鞭撻をお願い致します。

一般教育部長就任挨拶

平井 國友



4月より一般教育部長に就任致しました。就任にあたり、初心に戻り、大学の一般教育の目的について考えてみました。目的の一つは効果的思考能力を養うことであり、この能力は論理的、関系的、想像的思考能力の総合であるとされます。このため、一般教育には自然科学、社会科学、人文科学の分野が必要となります。ここで、想像的という言葉に着目しましょう。同じ音の創造的という言葉はしばしば話題にされてきましたが、想像的という言葉はそれほど話題にされてこなかったと思います。しかし、ここ一年あまりの社会状況を見れば、危険およびそれに伴う損害を想像する思考能力がいかに重要であるかが分かります。学生が想像的思考能力を持ち想定外という言い訳をしない人となるよう、一般教育が少しでも役に立てればと思います。

さて、今年度は医学科の入学選抜試験の変更があります。また、来年度に向けて、医学科のカリキュラムの変更を具体化する必要があります。一方、一般教育の教員人事には未解決の懸案が残っています。これらの課題について、十分な議論を尽くして、全体的な合意が形成できるよう努力するつもりです。皆様方のご指導、ご支援をお願い致します。

基礎医学教育部長就任挨拶

車谷 典男



このたび4月1日付けで、基礎医学教育部長に就任させていただくことになりました。基礎教育部長の職責は「基礎教育協議会を代表し、基礎医学教育に関する」事項の「調整を図ること」とされ、現在、その教育協議会は基礎医学13講座と先端医学研究機構の生命システム医科学2分野の教授と同施設部の主任教員から構成されています。学生の本学の教育環境に対する満足度は、「2010年度奈良医大学生白書」を見る限り、残念ながら非常に低いと言わざるを得ません。基礎医学教育を魅力あるものにするためには、例えば学生白書で示された問題点を一つでもより多く解決していくことが求められていると思われ、そのためには学生と教員の忌憚のない交流も必要と考えています。これらの努力が結果的に、基礎医学研究の一層の活性化にもつながると信じています。初めての経験であり、与えられた職責をどれ程こなせるかいささか不安ではありますが、前任の羽竹部長のごとく調整役と裏方に徹し、教員の先生方を始めとして学生も含めた関係者の皆様方の積極的な参加とご支援とご協

力をいただきながら、基礎医学の教育環境を少しでも前進させることに微力を尽くしたいと考えています。よろしくお願い致します。

臨床教育部長就任挨拶

福井 博



この度4月1日付で臨床教育部長を拝命いたしました。これまで9年近く附属病院副院長として、またこの6年間卒後臨床研修センター長として病院運営の一端を担ってまいりましたが、最近強く実感いたしますのは将来を託せる良医の育成がいかに大切かということです。卒前・卒後教育は関係各位のご尽力により年々改善されてきましたが、国際化し、多様化する臨床・教育現場において、奈良医大の将来を見据えて、さらなる改革を加えて行かなければなりません。志の高い若者を数多く集め、素晴らしい人材に鍛え上げるために、卒前卒後を通じた臨床各科の一層の連携協力が必要です。これまで培われて来たノウハウを活かしつつ、時には将来に向けて既存の枠にこだわらない柔軟性を発揮しなければなりません。どのようなシステムであっても、指導者がどれだけ熱い思いで後進を教育するか、いかに効果が上がるように教育するかが重要であり、そのためには指導者が力を発揮しやすい環境作りも欠かせません。今まさに大学・病院の総力を挙げて教育に邁進すべき時であります。皆様

方の変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げます。

看護教育部長就任挨拶

軸丸 清子



4月から看護教育部長を担当させていただくことになりました。近年、看護系大学は毎年10校程度ずつ増加し、平成23年度には約200校、看護系大学院も、131校（修士課程136、博士課程62、専門職学位課程1）と、増加を続けています。また、助産師教育については、平成16年度に大学院での助産師養成が始まり、平成23年度には16の大学院が助産師学校としての指定を受けています。

このような潮流の中にあって、本学も今年4月、看護学研究科（修士課程）看護学専攻（看護学コースと助産学実践コース）を開設し、12人の第一期生を迎えることになりました。エビデンスに基づく高度看護実践能力をもった人材育成のために、学部教育から大学院教育へと一貫した看護学教育が実現することを大変嬉しく思っています。また同時に、この開設の時期に教育部長を担当させていただくことに重大な責任を感じています。

皆様方の暖かなご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

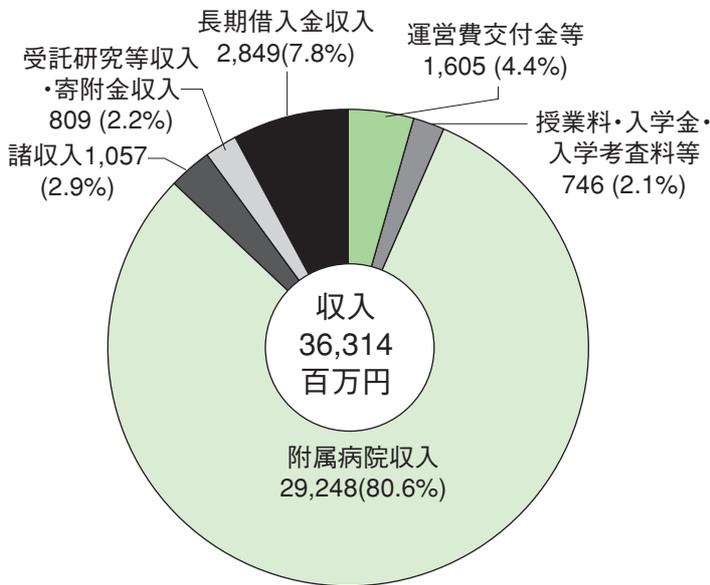
平成24年度予算は、新棟整備など法人の将来を見据えた大規模な取組を引き続き進めていく一方、経営努力による附属病院収入の増や施設整備に伴う長期借入金収入の増により、収入、支出ともに前年度予算より36億7,609万円増となり、前年度に引き続き収支が均衡した予算となりました。

24年度の主な取り組みとして、教育研究部門においては、学内施設設備の整備、課外活動への支援や教務事務システムの導入などにより学生生活支援体制を強化するとともに、実験実習費の増額など教育環境の充実を図ります。また、引き続き産学官の連携や優れた女性研究者の育成を推進するとともに、大型共用研究備品を計画的に更新することにより研究環境の充実を図ります。診療部門においては、病院施設の整備による快適な空間づくり、院内環境の改善等や案内ブース設置によるフロアマネジメント充実などアメニティの向上を図ります。

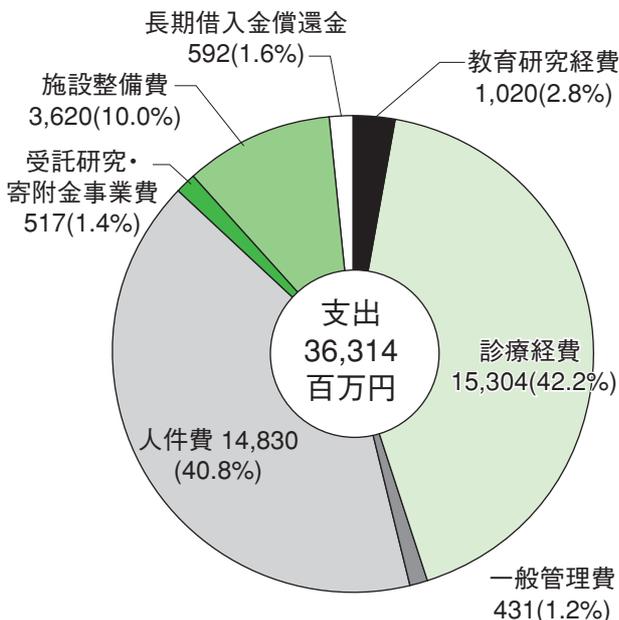
法人の更なる発展のため、効果的な投資を行っていく一方で、引き続き経営改善に向けた取り組みを進めて参りますので、職員のみなさんには、それぞれの分野でのご協力をよろしく願います。

平成24年度予算の構成内訳

予算総額：36,313,520千円(対前年比3,676,095千円、11.3%増)



- 【収入】**
- 運営費交付金等**
法人の効率的で安定的な運営を確保するため、県から交付されるもの
 - 授業料・入学金・入学考査料等**
大学・大学院授業料及び入学金など
 - 附属病院収入**
診療報酬、診断書手数料など
 - 諸収入**
駐車場収入、国庫補助金など
 - 受託研究等収入・寄附金収入**
外部からの資金
 - 長期借入金収入**
施設整備や医療機器の整備に関する借入金



- 【支出】**
- 教育研究経費**
教育関係費、研究関係費、図書館の経費など
 - 診療経費**
医薬材料費、医事委託費、機器保守経費など
 - 一般管理費**
火災保険、銀行手数料など法人運営に関する経費
 - 受託研究・寄附金事業費**
寄附講座、寄附金・受託収入による研究事業経費
 - 施設整備費**
新棟整備、医療機器及び大学・病院施設改修など
 - 長期借入金償還金**
施設整備や医療機器の整備に関する借入金の返済費用

平成24年度予算の主要事業・新規事業

□教育部門(学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保)

新 学生アメニティ向上事業 20,000千円
学生が利用する学内施設設備等の整備や課外活動の支援など、学生生活の向上を図る

新 教務事務システム設置事業 28,000千円
事務の迅速化、正確化を図り、学生サービスを向上させるため教務事務システムを導入

新 研究医養成コースの創設 5,900千円
基礎・社会医学の分野における研究者、医学教育者を養成するため、「研究医養成コース」を創設(対象者に奨学金を貸与)

○ 入試制度の改革 20,093千円 (H23 8,564千円)
試験問題印刷経費の増額や質の向上のための学外入試委員謝金の増額など入試制度改革に必要な経費を計上

□研究部門(研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実)

○ 地域医療学講座事業 75,000千円 (H23 75,000千円)
県からの交付金を財源に講座を設置し、地域医療に関する研究を実施

○ 産学官連携の推進 28,510千円 (H23 17,898千円)
特任教授を新たに配置するなど、産学官連携に積極的に取り組む

○ 女性研究者研究活動支援事業 32,680千円
女性研究者が研究を継続・発展させ、キャリアアップを図ることができる環境整備

○ 大型研究用備品の更新 78,000千円 (H23 13,000千円)
総合研究棟に設置されている大型共用研究備品が老朽化しているため、整備計画に基づき、年次的に更新

□診療部門(法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実)

○ 中央手術棟整備事業 1,442,100千円 (H23 672,892千円)
中南和地域における高度医療拠点病院として機能充実を図るため、「中央手術棟」を整備
※通路棟閉鎖に伴う案内ブース設置等における患者の案内・誘導経費を含む

○ 新棟整備関連アメニティ整備 90,000千円 (H23 24,800千円)
緑化、玄関照明の改善、サインの統一など来院者の快適性を高めるため、病院施設の一部を改修

○ 患者アメニティ向上事業 50,000千円 (H23 34,000千円)
患者等が利用する病院施設等整備により、快適な空間づくり、院内環境の改善等、アメニティ向上を図る

新 フロアマネジメントの充実 1,266千円
新棟整備による通路棟閉鎖終了後も案内ブースを常設することにより、フロアマネジメントの充実を図る

新 総合医療情報システム更新事業 1,000,000千円
電子カルテシステム等のハードウェア更新を図る

○ 医療用備品の整備 796,000千円 (H23 728,000千円)
県からの長期借入金やリース契約などを活用し、総額10億円の医療用備品整備枠を確保

□管理部門(法人組織の円滑な運営・福利厚生 of 充実、事務の合理化の推進)

○ 保育所運営の充実 31,516千円 (H23 8,615千円)
建替整備を実施した「なかよし保育園」を直営化し、保育所運営を充実

○ 看護師の確保対策 32,628千円 (H23 51,540千円)
メールマガジンやポータルサイトの活用など情報発信を充実させるとともに、学校訪問や専用宿舎の確保など、看護師確保に向けた取組を継続

○ 健康管理の充実 31,965千円 (H23 17,557千円)
学生及び教職員の健康診断等を一元的に管理する健康管理センターの運営(専任のセンター長配置)及び人間ドック実施に係る共済組合への補助

○ 情報システムの整備・運営
学内ネットワークの運営、SSL-VPNの運用、財務会計システムの更新、情報セキュリティの強化、人事給与システムの整備など

私たちはこんな1年を送ります ～平成24年度学事計画～

※諸事情により変更される場合がありますので、ご了承ください。

平成24年4月から25年3月までの主な行事やカリキュラムを紹介します。

医学科 1学年		医学科 2学年		医学科 3学年	
4/4(水)	入学式	4/9(月)	授業開始	4/9(月)	授業開始
4/5(木)～6(金)	新入生オリエンテーション	5/15(火)	開学記念日	4/9(月)～7/10(火)	コンソーシアム実習
4/9(月)	授業開始	7/16(月)～9/9(日)	夏季休業	4/9(月)～7/10(火)	地域基盤型学習
5/7(月)、5/14(月)	AED+BLS講習	7/17(火)～9/7(金)	救急自動車同乗体験実習(1～2日間)	4/11(水)～5/10(木)	基礎医学アドバンスコース
5/15(火)	開学記念日	9/20(木)	解剖慰霊祭	5/15(火)	開学記念日
7/2(月)、9(月)	施設見学(学内・院内)	9/18(火)～9/28(金)	前期定期試験(一般)	7/16(月)～9/9(日)	夏季休業
7/16(月)～9/9(日)	夏季休業	10/26(金)～28(日)	大学祭	9/18(火)	前期定期試験(一般)
9/20(木)	解剖慰霊祭	12/25(火)～1/6(日)	冬季休業	9/20(木)	解剖慰霊祭
9/18(火)～10/2(火)	前期定期試験	1/31(木)、2/4(月)	後期定期試験(一般)	10/26(金)～28(日)	大学祭
10/26(金)～28(日)	大学祭	2/18(月)～3/22(金)	後期定期試験(基礎)	12/5(水)～12/21(金)	SGL
12/25(火)～1/6(日)	冬季休業	3/25(月)～4/7(日)	春季休業	12/25(火)～1/6(日)	冬季休業
1/30(水)～2/12(火)	後期定期試験	/	/	1/21(月)～3/22(金)	後期定期試験(基礎)
2/18(月)～3/15(金)	医学特別実習(5日間)	/	/	3/25(月)～4/7(日)	春季休業
2/18(月)～3/15(金)	社会体験実習(3日間)	/	/	/	/
3/25(月)～4/7(日)	春季休業	/	/	/	/

医学科 4学年		医学科 5学年		医学科 6学年	
4/9(月)～5/24(木)	第1ブロック(授業)	2/27(月)～5/25(金)	BSL第1ブロック	2/20(月)～4/20(金)	臨床医学アドバンスコース
5/15(火)	開学記念日	5/15(火)	開学記念日	4/23(月)～5/2(水)	臨床医学アドバンスコース(試験)
5/25(金)～6/1(金)	第1ブロック(試験)	5/28(月)～9/14(金)	BSL第2ブロック	5/7(月)～6/29(金)	クリニカル・クラークシップ(4週間)
6/4(月)～9/14(金)	第2ブロック(授業)	7/23(月)～9/2(日)	夏季休業	5/7(月)～6/29(金)	臨床PBL(4週間×2)
7/16(月)～9/9(日)	夏季休業	9/20(木)	解剖慰霊祭	5/7(月)～7/6(金)	地域医療体験実習(4日間)
9/18(火)～9/21(金)	第2ブロック(試験)	9/17(月)～11/23(金)	BSL第3ブロック	5/15(火)	開学記念日
9/20(木)	解剖慰霊祭	10/26(金)～28(日)	大学祭	7/9(月)～13(金)	PBL症例報告会
9/24(月)～12/7(金)	第3ブロック(授業)	11/26(月)～2/15(金)	BSL第4ブロック	未定	卒業試験(第1ブロック)
10/26(金)～28(日)	大学祭	12/25(火)～1/6(日)	冬季休業	9/20(木)	解剖慰霊祭
11/19(月)～11/22(木)	社会フィールド系実習(法医学)	2/18(月)～3/5(火)	臨床医学TBL	未定	卒業試験(第2ブロック)
12/3(月)～2/15(金)	基本的臨床手技	3/6(水)～3/29(金)	学内4週間選択実習第1ブロック	10/26(金)～28(日)	大学祭
12/10(月)～12/14(金)	第3ブロック(試験)	3/30(土)～4/7(日)	春季休業	未定	卒業試験(第3ブロック)
12/17(月)～1/25(金)	研究室配属	/	/	未定	医師国家試験
12/25(火)～1/6(日)	冬季休業	/	/	3/15(金)	卒業式(予定)
12/26(水)、27(木)	CBT	/	/	/	/
2/4(月)～15(金)	実践的医療倫理	/	/	/	/
2/16(土)	OSCE	/	/	/	/
1/28(月)～2/1(金)	社会フィールド系実習(衛生学・公衆衛生学Ⅱ)	/	/	/	/
2/14(木)	社会フィールド実習報告	/	/	/	/
2/18(月)～21(木)	BSLオリエンテーション	/	/	/	/
2/27(水)～3/22(金)	BSL第1ブロック	/	/	/	/
3/25(月)～4/7(日)	春季休業	/	/	/	/



看護学科 1学年		看護学科 2～4学年		看護学科 編入3～4学年	
4/4(水)	入学式	4/9(月)	前期授業開始	4/4(水)	入学式
4/5(木)	新入生が'タ'ンス	5/15(火)	開学記念日	4/5(木)	新入生が'タ'ンス
4/5(木)～4/6(金)	新入生課外研修	7/13(金)	前期終講	4/5(木)～4/6(金)	新入生課外研修
4/9(月)	前期授業開始	7/23(月)～7/30(月)	前期試験	4/9(月)	前期授業開始
5/15(火)	開学記念日	9/20(木)	解剖慰霊祭	5/15(火)	開学記念日
7/13(金)	前期終講	9/28(金)	後期授業開始	7/13(金)	前期終講
7/23(月)～7/30(月)	前期試験	10/26(金)～28(日)	大学祭	7/23(月)～7/30(月)	前期試験
9/20(木)	解剖慰霊祭	12/22(土)～1/6(日)	冬季休業	9/20(木)	解剖慰霊祭
9/28(金)	後期授業開始	1/25(金)	後期終講	9/28(金)	後期授業開始
10/26(金)～10/28(日)	大学祭	2/4(月)～2/8(金)	後期試験	10/26(金)～10/28(日)	大学祭
12/22(土)～1/6(日)	冬季休業	/ 未定	助産師国家試験	12/22(土)～1/6(日)	冬季休業
1/25(金)	後期終講	/ 未定	保健師国家試験	1/25(金)	後期終講
2/4(月)～2/8(金)	後期試験	/ 未定	看護師国家試験	2/4(月)～2/8(金)	後期試験
3/25(月)～4/7(日)	春季休業	3/15(金)	卒業式(予定)	3/15(金)	卒業式(予定)
		3/25(月)～4/7(日)	春季休業	3/25(月)～4/7(日)	春季休業

平成23年度学位授与の状況

次の38名に博士（医学）の学位が授与されました。（甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。）

本審査日	平成23年	5月10日(火)	7名						
(乙)	小川 俊夫	健康政策医学	西田 卓	循環器・腎臓病態制御医学					
	頼木 領	消化器・総合外科学	羅 奕	分子腫瘍病理学					
	本山 靖	脳神経外科学	浅田 啓嗣	生体機能制御機構学					
	竹島 靖浩	脳神経外科学	岡安 唯	耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学					
	山田摩利子	眼科学	山本 敬史	泌尿器機能制御医学					
	濱田 匡章	小児科学	土肥 義浩	血管・神経再生医学					
	林 環	小児科学	(乙) 柴田 宗孝	生理学第二					
			鯨島 謙一	内科学第一					
			田村健太郎	脳神経外科学					
			藤本 京利	脳神経外科学					
			小島 正嗣	眼科学					
			木内 邦明	精神医学					
			芳野 浩樹	精神医学					
			瓦口 至孝	麻酔科学					
			笠井 孝彦	病理診断学					
			武田麻衣子	病理診断学					
本審査日	平成23年	7月12日(火)	5名						
(甲)	岡田 定規	循環器・腎臓病態制御医学							
(乙)	内藤 洋	胸部・心臓血管外科学							
	中村 昭文	整形外科							
	西尾福英之	放射線医学							
	山本 清誠	放射線医学							
本審査日	平成23年	11月8日(火)	4名						
(乙)	大野木 輝	産婦人科学							
	吉澤 順子	産婦人科学							
	松本 吉弘	泌尿器科学							
	岡本 倫朋	耳鼻咽喉・頭頸部外科学							
本審査日	平成24年	3月7日(水)	22名						
(甲)	杉浦 弘明	健康政策医学							
	紀本 創兵	精神医学行動神経科学							
	岡田 博司	放射線治療専門医養成コース							
	京谷 陽司	情報伝達薬理学							
	太田 浩世	呼吸器病態制御医学							
	添田 恒有	循環器・腎臓病態制御医学							
本審査日	平成24年	3月7日(水)	7名						
	後藤 桂	生体機能制御機構学							
	西浦 聡子	健康政策医学							
	前屋敷明江	健康政策医学							
	小松 雅代	健康政策医学							
	吉峰 正	総合病態放射線腫瘍学							
	曾山 奉教	医用工学							
	森本菜都美	医用工学							

次の7名に修士（医科学）の学位が授与されました。

本審査日	平成24年	3月7日(水)	7名
	後藤 桂	生体機能制御機構学	
	西浦 聡子	健康政策医学	
	前屋敷明江	健康政策医学	
	小松 雅代	健康政策医学	
	吉峰 正	総合病態放射線腫瘍学	
	曾山 奉教	医用工学	
	森本菜都美	医用工学	

平成24年度入試結果

平成24年度の入学志願者は医学部医学科は大幅に増加、看護学科はやや増加しており、医学科113名、看護学科97名の精鋭を迎え入れました。医学科で志願者数に対して受験者数が大きく下廻っているのは一次選抜を行ったためです。

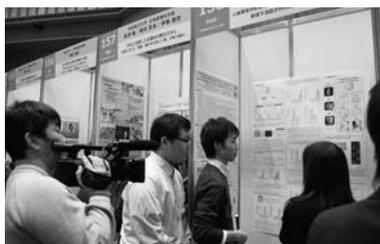
区分		募集人員	志願者数(A)	受験者数	合格者数(B)	追加合格者数(Bの内数)	入学者数	志願倍率(A/B)	前年度倍率
医学科	推薦(緊急医師確保)	13	185	64	14	1	13	13.2	3.5
	推薦(地域枠)	15	117	45	15	0	15	7.8	5.5
	前期	65	434	297	65	0	65	6.7	3.8
	後期一般	10	196	72	10	0	10	19.6	13.9
	後期地域	10	108	34	10	0	10	10.8	4.3
	小計	113	1040	512	114	1	113	9.1	5.0
看護学科	編入学一般	5	15	13	7	0	4	2.1	2.1
	編入学地域	10	15	15	8	0	8	1.9	2.1
	推薦	30	79	78	30	0	30	2.6	2.5
	社会人	5	17	14	6	1	5	2.8	4.2
	前期	40	131	125	43	3	40	3.0	2.7
	後期地域	10	53	30	11	1	10	4.8	9.2
小計	100	310	275	105	5	97	3.0	3.2	
医学部	合計	213	1350	790	219	6	210	6.2	4.2

平成24年度大学院医学研究科博士課程の入学者は22名で定員を満たしませんが、修士課程は定員の倍以上になりました。

また、今年度から開講します看護学研究科修士課程においても入学者数が定員を上回りました。

区分	募集人員		志願者数(A)	受験者数	合格者数(B)	入学者数	志願倍率(A/B)	前年度倍率
大学院 医学研究科 博士課程	40	1次	8	8	7	7	1.1	1.0
		(内社会人)	(3)	(3)	(3)	(3)	(1.0)	(1.0)
		2次	15	15	15	15	1.0	1.0
		(内社会人)	(6)	(6)	(6)	(6)	(1.0)	(1.0)
		合計	23	23	22	22	1.0	1.0
大学院 医学研究科 修士課程	5	(内社会人)	(9)	(9)	(9)	(9)	(1.0)	(1.0)
		1次	6	6	6	6	1.0	1.0
		(内社会人)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1.0)	(1.0)
		2次	5	5	5	5	1.0	1.3
		(内社会人)	(5)	(5)	(5)	(5)	(1.0)	(1.3)
合計	11	11	11	11	1.0	1.1		
(内社会人)	(7)	(7)	(7)	(7)	(1.0)	(1.2)		
大学院 看護学研究科 修士課程	10		12	12	12	12	1.0	
		(内社会人)	(4)	(4)	(4)	(4)	(1.0)	

第1回サイエンス・インカレ 医学科学生が研究奨励賞を受賞



本学医学科3年稲田賢君、佐藤玄基君による研究「心血管系の形態形成・機能維持におけるBMPシグナルと新規下流因子の作用メカニズムの解明」が文部科学省主催第1回サイエンス・インカレ（学生による自主研究の祭典）で研究奨励賞を受賞しました。



文部科学省は、日本が将来にわたり科学技術イノベーションを推進し、持続的に発展していくために、課題設定能力・課題探求能力・プレゼンテーション能力を備えた次世代の科学技術を担う若者を育成していくことを目指しています。そのために、自然科学分野を学ぶ全国の学生が研究成果を発表し競い合う場として、「第1回サイエンス・インカレ」（2月18-19日東京）を開催しました。本大会では、東京大学・大阪大学をはじめとする数十の大学から応募された127演題が口演もしくはポスター発表に採択されました。これらの研究は自然科学系の全分野を対象としていますが、稲田君・佐藤君（5年伊藤宗洋君も参加）の研究は、中川修教授（循環器システム医科学）の指導の下、卒業研究に関係しない生物系優秀演題として研究奨励賞に選ばれました。

今回の受賞につながった学生による研究活動は決して特別なものではありません。熱意と時間のある人はどんどん実験をすることができますし、学外の研究会や学会にも参加できます。これまで実験の経験が全くない人でも心配いりません。クラブが忙しい人には勉強会や読書会などへの参加も良いでしょう。学生の皆さん、あなたもどこかの研究室で放課後の研究活動に参加してみませんか？

※サイエンス・インカレ ホームページ <http://www.science-i.jp/index.html>



東日本大震災追悼行事開催

奈良県立医科大学 医学部医学科2年 中務 智彰

3月11日に本学において、東日本大震災追悼行事を行いました。

犠牲者の方々に哀悼の意を表すとともに、震災を風化させないこと、ボランティアや災害医療について理解を深めてもらうこと、今後のボランティア活動や災害教育につなげることを目的として、第1部では「東日本大震災メモリアル講演、震災後の福島・東北、そしてこれから、福島医大生を招いて」と題して講演会を行い、第2部では「3・11追悼燈台会@奈良医大」と題して追悼の灯火行事を催しました。講演では、福島県立医大4年鈴木美香さんより「福島医大生による学生ボランティアの活動」について、同じく4年中川芽依さんより「福島の現状」について報告していただきました。また、和歌山県立医大1年白木麻衣子さんより東日本大震災でのDMATの活動状況や問題点などについて報告していただきました。また私は、ボランティアとして活動する必要性や防災意識の向上を訴える講演を行いました。灯火行事では、入院患者さんも参加し、400個の竹灯籠とキャンダルにより、絆と3・11の文字を浮かび上がらせました。

参加者からは、「テレビの報道では知ることのできない医学を学ぶ学生がどのように東日本大震災に向き合ってきたかを知ることができた。」

「大切なのは震災から時間が経った今、そこで得た知識や反省を共有し、今後の震災発生にむけて準備することだと分かった。」「ボランティア活動の幅の広さを学べ、自分にもできることがあるのではないかと、ボランティアに対する態度が変わった気がする。」といった感想が寄せられました。



国家試験結果

3月19日、厚生労働省から第106回医師国家試験（2月11日～13日実施）の合格者が発表されました。今回の試験結果は下表のとおりです。

第106回医師国家試験

本学医学部医学科				平均合格率(%)				
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)		全国	国立	公立	私立
新卒	95	92	96.8	新卒	93.9	94.3	95.1	93.5
既卒	12	6	50.0	既卒	60.0	54.6	79.3	66.9
計	107	98	91.6	計	90.2	90.5	93.9	90.2

看護師(2月19日実施)、助産師(2月16日実施)、保健師(2月17日実施)国家試験の合格者が3月26日に発表されました。試験結果は下表のとおりです。

第101回看護師国家試験・第95回助産師国家試験・第98回保健師国家試験

本学医学部看護学科				平均合格率(%)				
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)		全国	国立	公立	私立
看護師(新卒)	78	76	97.4	新卒	95.2	97.3	91.9	96.4
(既卒)	3	3	100	既卒	49.2	61.4	44.8	41.5
計	81	79	97.5	計	90.1	96.6	87.2	93.8
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)		全国	国立	公立	私立
助産師(新卒)	13	13	100	新卒	96.0	96.1	98.6	95.6
(既卒)	0	0	—	既卒	64.7	60.7	69.6	64.7
計	13	13	100	計	95.0	95.1	94.5	95.0
区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)		全国	国立	公立	私立
保健師(新卒)	92	85	92.4	新卒	89.2	89.7	94.5	79.5
(既卒)	6	2	33.3	既卒	48.1	49.9	63.6	27.9
計	98	87	88.8	計	86.0	86.7	92.6	73.1

(看護部)

看護師国家試験に合格しました

日本・インドネシア経済連携協定により当院で働きながら勉強を進めてきた2人がこの度、難関を突破し看護師国家試験に合格しました。

4月より看護師として働くことになりました。みなさんよろしくお願ひします。

2人の意気込みを書いてもらいましたので、原文で紹介します。

メイラニ マヤ イリアナさん (ジャワ島出身) (写真右)

3回目でやった!!メイラニ マヤ イリアナと申します。22年1月16日から奈良県立医科大学附属病院のC病棟6階で働いています。日本の看護師国家試験を合格するために、働きながら勉強しておりました。3回目の国家試験を受けました。試験は難しいと思いました。合格をする事は無理と思いますけど、皆様からサポートしてくれました。本当に助かりました。皆様のおかげさまで、今年の看護師国家試験を合格しました。合格したけれども、まだまだ終わらないと思います。これからもっと大変だと思います。いい看護師になるためにハードに勉強しないとイケませんが、頑張ります。



ヨノ カルジヨノさん (ジャワ島出身) (写真左)

夢を叶えるっていう気持ちがあるのは最初の試験発表を見た瞬間でした。やっと、受かりました。嬉しくて、何も言えないくらいの気持ちでした。

病棟看護師や看護副部長の皆様がたにご指導いただき、ありがとうございました。ご心配おかけしましたが、おかげさまで試験に合格しました。

本当に頑張るのはこれからだと思いますし、看護師として、患者さんのために、自分のために頑張っていきたいと思っております。役に立つ看護師になるっていう気持ちで身体の健康だけではなく、心のケアもできる限り提供したいと思っております。

これからもよろしくお願ひ致します。

連載 クラブ紹介

本学の学生は、勉強だけをしているわけではありません。

多くの学生は、文化系12部、体育系24部のうちのいずれかのクラブに所属しています。そして、心身を鍛え、交友を深め、青春を謳歌しています。

さて第8回のクラブ紹介は、男子バスケットボール部と東洋医学研究会です。



男子バスケットボール部

「笑顔と、自信と、冷静さ」

部員:19名

顧問:中島祥介(消化器外科教授)

主将:若林拓也(4年)

活動内容:バスケットボール

練習日:月、水、金、土曜日

午後5時～

僕らバスケットボール部は医大の体育館または大学近くの県立体育館で練習しています。プレイヤー15人、マネージャー4人で、個性的な面々が集まっているにぎやかなクラブです。男子部内だけでなく女子部とも交流があり、曜日によっては同じ体育館で練習したりと仲良く活動しています。また在籍なさったOB・OGの先輩方が100名を超える伝統ある部活動で、僕らがこうして日々バスケットに精を出せるのも、バスケットを通じて充実した学生生活を送れるのも、OB・OGの先輩方のご支援があってこそであり、その感謝の思いは筆舌に尽くしがたいほどです。

バスケットボールは5人对5人で得点を競いあう団体競技で、ひとつのボールを貪欲に追いかけるガッツはもちろんですが、頭を使って考えてプレーすることも大切となる非常に奥の深いスポーツです。相手を出し抜くスピード、接触到に耐えうるフィジカル、俊敏に走り回る走力など、プレイヤーにはさまざまな身体能力が求められますが、ひとりの力だけではなく、チーム全体としての協調、意思疎通など攻守におけるチームワーク力が勝敗を大きく左右します。僕らのチームでは大学バスケットでは比較的多い週4で練習を重ねており、その分チームの結束力は強いと思います。年に主要な大会は3つあり、中でも最も規模の大きい西日本医科学生総合体育大会(西医体)での優勝目指してチーム一丸となって練習に励んでいます。

また夏と冬のオフにはチームみんなで旅行にも出かけます。やる時はやる、遊ぶ時は遊ぶ、いろんな思い出ができる楽しいクラブです。

最後になりましたが、僕らのバスケットボール部に少しでも興味を持たれた方は、ぜひ我が部のホームページをご覧ください!

<http://narmedbasketball.jimdo.com/>



東洋医学研究会

「東洋と西洋の統合を目指して!」

部員:31名

顧問:藤本 眞一(教育開発センター教授)

主将:濱田健吾(3年)

活動内容:学生による漢方の勉強会

練習日:毎週火・木曜日の昼休み

漢方は日本独自の医学です。昔、中国から伝わってきた経験的医学が日本で発展したものです。ですから、今の中国の伝統医学(中医学)とは結構違います。

東洋医学研究会では主に漢方(特に古方)を勉強していますが、アロマ・鍼灸など様々な伝統医学に興味を持ち、部員同士で教えあっています。また、座学だけでは耐えきれないので、薬用植物園の見学や病院見学・工場見学なども積極的に行っていきます。

現在、医学科のみで31名の部員がいます。全員が揃うことは絶対ありませんが、ゆるくつながりあっています。ほとんどの部員は兼部です。

連載 電子ジャーナルを使いこなそう! 第5回

オックスフォード大学出版局「オックスフォード・ジャーナル(Oxford Journals)」

今回はオックスフォード大学出版局(以下オ社)の「オックスフォード・ジャーナル(Oxford Journals)」をご紹介します。

オ社は、言わずと知れた英国オックスフォード大学の出版局を兼ねた出版社です。オックスフォード英語辞典など辞書類が有名ですが、電子ジャーナルや電子ブックも多数出版しています。本学では、医学・生命科学分野パッケージ95誌の電子ジャーナルを購読しています。

Oxford Journalsトップページ(<http://www.oxfordjournals.org/>)からアルファベット順あるいは主題別に電子ジャーナルタイトルを選択します(図1)。本学で契約している電子ジャーナルは主題別に生命科学(LIFE SCIENCES)及び医学(MEDICINE)をカバーしています。アルファベット順リストのすぐ下には、同サイト内の検索窓があり、右側の「Advanced search」をクリックすると、より細かい検索ができます。アルファベット順あるいは主題別リストから個別タイトルを選ぶと、各雑誌ページが開きます(図2)。画面中央の表紙画像の右側にメニューが縦に並んでいます。「View Current Issue」からは最新号の目次が表示され、「Advance Access」では出版前の最新論文にアクセスできます。「Browse the Archive」では以前に発行された年の一覧が表示され、発行年をクリックすると巻・号一覧へと進みますが、アクセスできるのは1996年以降となります。

ご不明な点がございましたら、担当(鈴木、内線2293)までお問い合わせ下さい。



(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

文献が探しやすくなりました!

今まではPubMedや医中誌などの二次情報データベースで検索したあとに本学で所蔵しているのか、あるいはオンライン版の購読をしているのかを確かめるには、それぞれ、所蔵資料検索を行ったり、購読雑誌リストを調べたりする必要がありました。

このたび、当館ではリンク・リゾルバーというサービスを導入しました。このサービスはデータベースの各検索結果に表示されるアイコン(図3)をクリックすると別ページが開き、本学の購読状況に応じたリンク先が表示されるものです(図4)。本学に当該文献がなかった場合には、「関連情報を探す」タブをクリックして「文献複写を申し込む」を選ぶと、Myないとサービスへリンクして、容易かつ正確に文献複写申請ができます。Myないとサービスのご利用には別途利用申請が必要です。お問い合わせはメインデスク(内線2294)まで。

産学官連携だより

①大学で特許を取得する理由はあるか？

一般的に大学における研究は、その成果を通常、論文として社会に公開、還元します。

一方で、企業における研究は、事業に新たに利用可能な技術を開発することを目的としており、成果として得られた発明は、特許出願による公開の代償として一定期間の独占権を得ることができ、独占的地位による事業活動が企業に収益をもたらす、更なる研究開発の促進が期待されます。

大学の研究成果は、原理の発見から、特許権を取得して事業に利用可能な発明まで様々です。大学は営利を目的としておらず、その成果は広く一般社会に還元されなければなりません。したがって排他的独占権である特許権を取得することは、一般社会への還元に反するとの意見には正当性があるといえます。

しかし、大学の研究成果を特許出願していなかった有名な失敗例としてジベレリンの発見があります。日本で発明された植物品種改良剤ジベレリン（1935年に東京帝国大学の藪田貞二郎と住木諭介が命名）は、植物の生長促進物質として現在でも各種農作物の生産に役立てられています。この発明は当時非常に革新的な発明で、研究に携わった住木博士は、海外渡航が厳しく制限されていた戦後間もない時期にもかかわらず、招待されてニューヨークでの国際学会に参加し、そこで研究成果を発表しました。

住木博士は学会発表後に特許出願をしたため、自分の研究発表論文が出願前公知となってしまう、この画期的な発明の基本特許を取得できませんでした。その一方で、この発明を知ったアメリカの製薬会社は、ジベレリンが空気中の酸素によって劣化することをヒントに、合成樹脂カプセルで包錠するという改良発明に関する特許権を取得しました。

このため、日本で研究開発された基本発明であるにもかかわらず、アメリカの製薬会社の特許が基本特許になり、研究開発の主導権が特許を取得したアメリカの製薬会社のものとなってしまったのです。

iPS細胞を世界で初めて作成した京都大学の山中教授が特許取得を行っているのも上記の失敗例が念頭にあるものと思われます。大学が特許権を保持していれば、研究活動を第三者が取得した特許権により制限される心配はなくなり、成果を広く、効果的に社会還元することをライセンス等によって成果を生み出した大学側がコントロールすることが可能となります。企業に特許権を抑えられると、企業側の利益を最大化するため製品が高額となって画期的な再生医療の成果を所得の格差により享受できない人が出てくる可能性があり、山中教授もそのようなことを避け、研究成果が広く社会の人々のために活用されることを希望して行動しておられると思われます。

一方、特許を取得しないことによりその研究成果が広く社会で活用されている例もあります。ノーベル賞を受賞した北海道大学鈴木名誉教授のクロスカップリングがその代表的な例と言えるでしょう。

研究成果を特許として権利化すべきかどうかは、上記の例のように、ケースによって異なり、一概にどちらが良いとは言えない産学官連携における課題でもあります。

産学官連携推進センターでは、研究者が苦勞して生み出した成果を社会還元する最善の方法を一緒に検討させていただけたらと考えていますので、何か新しい研究成果が出た場合には、お気軽にご相談ください。

(連絡先：内線2552 産学官連携推進センター事務局 担当：米坂、井村 又は 特任教授 大野)

「奈良ヘルスケア産学官連携研究会」の開催



去る、3月6日に本学で奈良医大の研究シーズ・医療現場のニーズとモノづくり企業等との連携促進を通じ、生活現場・医療現場の課題解決と中小企業のビジネスチャンスを広げることを目的に、「奈良ヘルスケア産学官連携研究会」を開催しました。

第1回目の今回は、奈良医大 整形外科教室、及び看護部の現場の声(ニーズ)を発信し、県内中小企業の新たな事業分野への参入機会の創出を狙いました。参加者は58名で、興味を持った参加企業からのエントリーシートによる申し込みを受けて、発表者との面談を実施し、連携の可能性を個別に検討しています。

今回のような場で、日常の課題を発表いただくことによりその解決方法のヒントが得られる場合があり、それが製品化に結び付けば、産業振興にもつながります。医療現場での課題、ニーズをお持ちの方は情報をお寄せください。

(連絡先：内線2552 産学官連携推進センター事務局 担当：米坂、井村 又は 特任教授 大野)

「外反母趾の人にやさしい靴下」の共同開発

平成22年9月から本学の整形外科学講座と県内中小企業の株式会社高田メリヤスとの間で外反母趾サポータの共同研究に取り組みました。その結果、株式会社高田メリヤスから「外反母趾の人にやさしい靴下」として製品化され、弘済団の売店でも販売が開始されています。地元企業との産学官連携が成果(商品化)として実を結びました。このような、地元中小企業との連携も産学官連携の一つの形であり、地域貢献にもつながるもので、今後も取り組んでまいりたいと考えています。

※製品に関するお問い合わせ

株式会社高田メリヤス

TEL:0745-53-1426

<http://www.takamerry.co.jp>



形成外科センターの設立にあたって



形成外科センター長 浅田 秀夫
形成外科副センター長 桑原 理充

形成外科は、現在では多くの医学部、医科大学で独立しており、その必要性、有用性は世間一般にも広く認識されるようになってきました。しかし、奈良では形成外科がどのような診療科であるのかについて、患者さんだけでなく医療関係者にもまだよく理解されているとは言えません。「整形外科とどう違うのか?」「美容整形のことですか?」と聞かれることもしばしばあります。院内に形成外科診療が標榜されて、7年ほどになりますが、形成外科宛の紹介患者さんは、県内からよりも、むしろ県外からの方が多い状態です。

形成外科は外科の一分野で、主な診療内容は、体表の先天性の奇形、異常、顔面骨骨折を含む外傷や、腫瘍切除後などの後天性の疾患や変形に対して、形態的、機能的により良い状態に再建することを目的としています。当院においても、広範囲の皮膚腫瘍、耳鼻科、口腔外科の頭頸部腫瘍切除後の再建、さらに外科系各科からの広範囲組織欠損症例などについて、生命維持に必要なレベルはもちろんのこと、それ以上を求める患者さんの様々なニーズに対応しています。いわゆる美容外科も学問的には、形成外科の範疇に含まれますが、自由診療の範囲のため、現在のところ大学病院では行っておりません。

当センターは、1993年より日本形成外科学会認定研修施設として認定を受けた皮膚科を主な母体として発足しました。これまで7名の形成外科専門医を輩出しています。診療体制は形成外科センター専従医3名という小さな所帯ですが、今後沢山の後期研修医の入局により、より安全、確実、患者さんに喜んでもらえる様な治療を積み重ねていきたいと考えております。全身麻酔手術日は、火曜 木曜。外来は主に月、火、水、金、の午前で診させていただきます。外科系各科の先生方の手術に役に立てるよう頑張っております、手術内容、日時を是非相談いただけますようお願い致します。

卒後臨床研修センター改修のご報告



卒後臨床研修センター 赤井 靖宏

「研修医個々人の机はぜひ必要だ。必ず実現するように。」 榊 壽右前院長のお言葉で奈良県立医科大学卒後臨床研修センター（以下、研修センター）改修がスタートした。

平成16年に研修センターが開設されて以来、多くの研修医が研修センターで2年間（歯科研修医は1年間）の臨床研修を過ごしてきた。研修センターには初期臨床研修医が常時80-90名所属し、初期研修医は奈良医大最大の医師集団である。従来は、大学病院において医局に所属しない初期研修医に対する環境整備は大きな課題であった。100名近い研修医の部屋を整備するためにはスペースの問題等、越えるべき壁が多かった。今回、榊 前院長を始め、多くの皆さんの御協力で、従来の研修センターの2階に研修医室が整備され、本年4月1日から運用が開始された。研修医室は6室あり、研修医約100人分の机が用意されている。無線LANなどコンピュータ環境も整っている。研修医室以外に指導医室や事務室も整備され、指導医室はスモールグループカンファレンスなどが行えるようにプレゼンテーション環境も充実している。新たな研修医室は研修医に大変好評であり、4月から新たに研修を始める研修医にもすでに机が割り振られ、医師としてのスタートにふさわしい環境が提供できていると私は自負している。また、他大学の医学生が当院の見学に訪れた際には、新しい研修医室を必ず見学してもらっている。新たな研修環境は研修医獲得の呼び水となること間違いなしである。今後はこの研修センターにふさわしい、志し高い研修医の獲得にさらに邁進したい。

今回の研修センター改修には、榊 前病院長、吉岡 章 理事長、福井 博 臨床研修センター長をはじめ、事務方の皆さんも含め、多くの方に大変お世話になった。この場をお借りして深謝いたします。ありがとうございました。



所属紹介

B病棟4階

整形外科病棟

B病棟4階は整形外科病棟で病床数は60床です。整形外科病棟の主な疾患は足・足関節、股関節、脊椎、膝関節、手・手関節、肩関節に関わるものと神経、血管等の再建や骨肉腫などの腫瘍です。主な治療は手術療法や化学療法で、手術後の急性期の全身管理から回復期のリハビリテーションの援助など、日々状態が変化していくなかでその状況に合わせながら看護を提供しています。

入院対象は乳児～高齢者までと年齢層が幅広く、各発達段階に応じた援助を行っています。また骨肉腫やマイクロサージャリーの分野など専門性が高く、適切でよりよい看護を提供できるように日々勉強にも励んでいます。また回復期はリハビリテーションが中心になってくるため、リハビリテーション部との連携を図り、多職種カンファレンスに力を入れています。

看護師は師長、主任を含め33名在籍しており、平均年齢が若くパワフルに働いています。当病棟は運動器疾患のため、歩行困難など日常生活に支障をきたしている患者さんが多いです。このような患者さんが治療を受けて回復していく過程を傍で見守り関わることができて看護師としてのやりがいを感じます。退院時の笑顔を見る瞬間は「看護師になって良かった。」「また、明日からも頑張ろう。」という気持ちにさせてくれる職場です。



B病棟5階

脳神経外科病棟

B病棟5階は3大死因である脳卒中のほか脳腫瘍・脊髄・神経疾患の患者（小児を含む）さんが急性期からリハビリ期まで入院されています。

病床数は55床で29名の看護師がケアにあたり日々奮闘しています。

脳神経外科は「緊急入院や重症の症例が多い」「ADLに時間がかかる」というマイナスのイメージが強いのと思いますが、看護師は「体力自慢」のつわもの揃いです。学習の機会も多く、看護の原点である日常生活援助から専門的な超急性期の看護まで幅広く経験できる病棟です。病棟内はいつも活気にあふれ、リハビリテーションをはじめとする他部門との連携のもと「嚥下が出来るようになった」「食事が自分で出来るようになった」「少しずつ歩けるようになった」など、患者やその家族からの喜びの声を耳にする時、脳神経外科看護のやりがいを感じます。



B病棟6階

消化器外科・小児外科・乳腺外科病棟

B病棟6階は消化器外科・小児外科・乳腺外科病棟です。

消化器外科というメジャーな所属ですが、部位が多く、細かく分類すると10か所以上になります。また小児外科では先天的な臓器疾患を主に対象とし、乳腺外科は文字通り、対象は乳がんです。対象者は乳児から老年期までと幅広く、主な治療としては約6割が手術療法で、3割がターミナルケアや化学療法・放射線療法などの慢性期治療、1割が短期治療・検査と、それらの主に「がん」という疾患にトータルに関わっています。平成24年からは全ての曜日が手術日となり、今後は手術の割合が増えることは確実です。

看護としては入院期間が短縮される中、パスに準じた周術期看護、ストーマの自己管理習得への援助、ターミナルケア、退院調整と幅広い看護が要求されます。

手術・手術後の化学療法・ターミナルケアと長期にわたって入退院を繰り返される方もおられ、一人の患者さんと付き合う機会が多く、精神的援助も必要です。そのような中で、患者さんや家族から「ありがとう」「またここでよかった」と言ってもらえるよう、医師、多職種と協力し、日々、患者の治療・ケアに取り組んでいます。



第19回

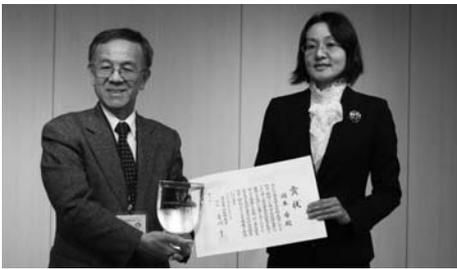
中島佐一学術研究奨励賞決定!

奈良県立医科大学において医学の学術研究に優れた業績をあげた若手教員を対象として募集したところ7件の応募があり、平成24年2月15日に開催された選考委員会で審査した結果、次の2名の方が受賞の栄冠に輝きました。

所属	氏名	研究テーマ
放射線医学	田中 利洋	進行膵癌に対するIVR技術を駆使した新規動注療法の開発
脳神経システム医科学	吉原 誠一	嗅球における感覚入力依存的な神経回路再編の分子機構

第1回 奈良県立医科大学

女性研究者学術研究奨励賞の受賞



優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰し、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資することを目的として、「奈良県立医科大学女性研究者学術研究奨励賞」が創設されました。教授を除く学内の女性研究者等の中から選考の結果、地域健康医学教室の岡本 希講師が選ばれ、平成24年3月19日に表彰されました。

ハラスメント防止研修会開催

女性研究者支援センター

3月19日(月) 厳櫃会館において、女性研究者支援センター主催のハラスメント防止研修会を実施しました。広島大学ハラスメント相談室室長・教授横山美栄子先生に「キャンパス・ハラスメントをなくすために―医療系での事例を中心に」と題して講演をいただき、ハラスメントに関する詳しい説明や、横山先生の経験から語られる理系・文系大学におけるハラスメントの違いについてお話しいただきました。

同時に、文部科学省平成23年度科学技術人材育成費補助金(女性研究者研究活動支援事業)を充て女性研究者支援センターで制作したDVD「アカデミック・ハラスメントへの理解と発生防止―女性研究者が生き生きと働き活躍できる環境をつくるために」を上映しました。

このDVDは意識啓発の一環として作成したもので、様々な事例とそれぞれの事例の問題点、改善例を紹介しています。研修DVDの貸し出しを行っていますので、興味のある方は女性研究者支援センター(内線2525)まで、お問い合わせください。

第12回 奈良県立医科大学医学部看護学科
同窓会総会開催のお知らせ

平成24年度は 3年に1度の総会開催年になります。

現在、同窓会理事会において計画を進めており以下の内容が決定しております。

開催日時：平成24年6月30日(土) 午前10時～午後3時

開催場所：橿原神宮養正殿

内 容：総会 記念講演 懇親会 他

総会に多数出席して下さるようよろしくお願いいたします。

なお、総会に関する詳細はもちろん、同窓会活動に関する内容を本学ホームページにも掲載しております。

ご覧になられてご意見やご質問がありましたら事務局までご連絡ください。

看護学科同窓会事務局 看護学校舎407研究室 上平悦子
Tel:0744-29-8951(直通)

Report

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/> → 「規程・名簿タブ」

※は、公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

(総務課)

役員会及び教育研究審議会の報告

第36回 役員会（1月4日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 部長選考について
- (2) 3 医学科教授選考に関する規程についての申合せについて
- (3) 4 任期制教員の再任審査について
- (4) 5 寄附講座の設置について

第10回 教育研究審議会（1月5日）

- 1 教員の人事について承認
- 2 部長選考について承認
- 3 任期制教員の再任審査について承認
- 4 医学科教授選考に関する規程についての申合せ等について承認
- 5 特任教員の配置について承認
- 6 寄附講座の設置について承認
- 7 奈良県立医科大学学生の感染に関する規程の一部改正について承認
- 8 臨床教授等の選考について承認
- 9 次期学長候補者の決定について報告
- 10 大学院看護学研究科修士課程等出願状況について報告
- 11 発見された未登録の核燃料物質に係る調査結果について報告

第37回 役員会（1月11日）

- 1 副学長候補者の推薦について承認
- 2 公舎・宿舎の状況について承認

第38回 役員会（1月18日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 健康管理センター長の選任について承認
- (2) 3 主任保育士の採用合格決定について承認

第39回 役員会（1月25日）

- 1 副学長選考の実施方法について承認
- 2 看護職員採用試験の合格者決定について承認
- 3 なかよし保育園 入園のしおりについて報告
- 4 平成23年度 第2回決算見込みについて報告
- 5 県予算の内示状況について報告

第40回 役員会（2月1日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 部長選考について
- (2) 3 教員の人事について
- (3) 4 特任教員の選任等について
- (4) 5 教授選考について
- (5) 6 平成24年度 年度計画の策定について
- (6) 7 発明届について
- (7) 8 若手研究者国際学会発表助成事業（案）について
- 2 副学長の決定について承認
- 3 中期計画及び平成23年度年度計画の重点的に進捗管理を行う項目の取組み状況（4月～12月）について報告

第11回 教育研究審議会（2月2日）

- 1 発明届について承認
- 2 教員の人事について承認
- 3 特任教員の選任等について承認
- 4 部長（附属図書館長、研究部長、看護学科長）の選考について承認
- 5 健康管理センター長の選任について承認
- 6 平成24年度年度計画の策定について承認
- 7 若手研究者国際学会発表助成事業（案）について承認
- 8 副学長の決定について報告
- 9 中期計画及び平成23年度年度計画の重点的に進捗管理を行う項目の取組み状況について報告

第41回 役員会（2月15日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 平成24年度予算案について
- (2) 3 外国人客員研究員の受け入れ期間の変更について承認
- 2 職員採用試験（臨床工学士、視能訓練士）の合格者決定について

第42回 役員会（2月22日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 発明届について
- (2) 3 奈良県立医科大学研究医養成コース修学資金貸与規程の制定について
- (3) 4 看護教育講師の称号付与制度について

第12回 教育研究審議会（2月28日）

- 1 附属図書館長・研究部長、看護学科長について承認
- 2 各教育部長の推薦依頼について承認
- 3 奈良県立医科大学学則の改正（看護学科編入学定員の減員）について承認

第43回 役員会（2月29日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 教員の人事について
- (2) 3 特任教員の選考について
- (3) 4 臨床教授等の選考について

(4) 各種委員会委員の改選について

- 2 部長（附属図書館長、研究部長、看護学科長）の決定について承認
- 3 形成外科センターの開設に伴う附属病院規程の改正等について承認
- 4 地域医療連携システム運用管理規程の制定について承認
- 5 看護職員採用試験の合格者決定について承認
- 6 ラジオアイントープ委員会と放射線安全委員会との合同会議の開催について報告
- 7 東日本大震災 追悼行事について

第13回 教育研究審議会（3月1日）

- 1 教員の人事について承認
- 2 特任教員の選考について承認
- 3 臨床教授等の選考について承認
- 4 各種委員会委員の改選について承認
- 5 化学教授選考について承認
- 6 平成24年度年度計画の策定について承認
- 7 平成24年度予算案の概要について承認
- 8 発明届について承認
- 9 奈良県立医科大学研究医養成コース修学資金貸与規程の制定について承認
- 10 外国人客員研究員の受け入れ期間変更について承認
- 11 ラジオアイントープ委員会と放射線安全委員会との合同会議の開催について報告
- 12 東日本大震災 追悼行事について

第44回 役員会（3月7日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 平成24年度予算（案）の概要について
- (2) 3 平成24年度組織編成について承認
- (3) 4 平成23年度決算見込みについて報告
- (4) 5 仮称 中央手術棟の整備について報告
- 5 地域医療連携システム運用管理規程の制定について報告

第45回 役員会（3月14日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 教員の人事について
- (2) 3 特任教員の人事について
- (3) 4 特別研究員の契約更新について
- (4) 5 病院助成制度について
- (5) 6 教育研究審議会の学外委員の再任について
- 2 勤務時間の改定について承認
- 3 平成24年度組織編成について承認
- 4 平成24年度 年度計画について報告
- 5 ゲノム薬理学を利用する治験申請の審査について報告

第46回 役員会（3月21日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 部長（各教育部長）の選考について
- (2) 3 教員の人事について
- (3) 4 名誉教授の称号授与について
- (4) 5 病院教授について
- (5) 6 病院助成制度について
- (6) 7 教員の海外留学について
- (7) 8 臨床教授等の選考について
- (8) 9 看護教育講師の称号付与制度について

第14回 教育研究審議会（3月21日）

- 1 部長（各教育部長）の選考について承認
- 2 教員の人事について承認
- 3 特任教員の人事について承認
- 4 特別研究員の契約更新について承認
- 5 寄附講座教員の人事について承認
- 6 名誉教授の称号授与について承認
- 7 病院教授について承認
- 8 病院助成制度について承認
- 9 教員の海外留学について承認
- 10 臨床教授等の選考について承認
- 11 看護教育講師の称号付与制度について承認
- 12 教育研究審議会の学外委員の再任について承認
- 13 平成23年度決算見込みについて報告
- 14 平成24年度予算（案）の概要について報告
- 15 平成24年度 年度計画について報告
- 16 ゲノム薬理学を利用する治験申請の審査について報告

第47回 役員会（3月28日）

- 1 教育研究審議会案件について承認
- (1) 2 奈良県立医科大学研究医養成コース運営委員会規程の制定について
- 2 役員人事について承認
- 3 組織変更に伴う規程の改正について承認
- 4 勤務時間の改定等に伴う法人諸規程の一部改正について承認
- 5 職員給与規程の改正について承認
- 6 なかよし保育園運営規程の制定等について承認
- 7 奈良県立医科大学情報システム運営委員会規程他の改正について承認

公開講座 「くらしと医学」を開催しました

23年度後期の公開講座を、3月10日（土）に奈良市の奈良県文化会館国際ホールにて開催しました。平成6年度から始まったこの講座も、今回で28回目となり、今回の会場である奈良県文化会館での開催も18回目となりました。当日は、約450名と多くの聴講者を得て次のとおり進められました。

◇吉岡章学長あいさつ ◇講演

- ①大崎茂芳 化学教授「健康美とコラーゲン・クモの糸の研究からその秘密をあばく！-」（座長：藤村吉博 輸血部教授）
- ②石橋道男 泌尿器科講義師（現 森之宮病院泌尿器科）
「いわゆる男性更年期障害（テストステロン低下症）について」（座長：平尾佳彦 泌尿器科学教授）
- ③平尾佳彦 泌尿器科学教授「泌尿器がんの診療-前立腺がんを中心に-」（座長：長谷川正俊 放射線腫瘍医学教授）

聴講者はメモを取るなど、熱心に聞いていました。今回は、男性の受講者が多く、積極的に質問されていました。

公開講座は、本学の地域貢献の一環として、「くらしと医学」をテーマに、広く県民の方に、医学・看護学の知識を解りやすく解説し、日々の暮らしに役立てていただくことを目的としています。24年度前期は、平成24年9月8日（土）橿原文化会館で開催の予定です。



吉岡学長あいさつ



大崎教授



石橋先生



平尾教授

「メディア掲載情報」をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を、この「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
大崎茂芳 教授 (化学)	英BBC NEWS 3月5日(月) 米ABC NEWS 3月7日(水)	BBC NEWS, ABC NEWS等の海外メディアに大崎教授による「クモの絹糸から作られたヴァイオリン」に関する記事が掲載されました。クモの糸にとって新しい実用的な使用法であり、世界中のヴァイオリン奏者と音楽愛好家双方にとって、独特の種類の音色を提供するであろうと称賛されました。
和田佳郎 講師 (第一生理)	NHK 「NHKスペシャル」 7月15日(日)	航空自衛隊と共同で空間認知研究をおこなっており、その一環として体操の内村航平選手の空間認知能力を検証した。教室配属の学生5名(山中、松本、仲野、木田、竹内)も実験者として参加した。

このコーナー「メディア掲載情報」は、皆さんからの提供情報に基づき作成します。自薦、他薦を問いません。

【情報提供先】

ファックス等により、右記へお知らせください。法人企画部 総務課 総務係 (内線2206) FAX 25-7657
くわしくは、URL:http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/soumuka/O3soumu/media_joho.pdf (学内専用)

学報バックナンバーはWebサイト上でもご覧いただけます (<http://www.naramed-u.ac.jp/gakuho.htm>)

下ツ道

(編集後記)

今春はたくさんの方が退任されました。奈良医大の発展に大きく貢献されてきた方々からの退任あいさつには、私たちへの期待と激励の気持ちが込められています。中央手術棟の整備事業もようやく進み始め、なかよし保育園も新園舎が完成しました。経営努力による附属病院の収入増もあり新年度の予算は収支ともに昨年よりもさらに大きな予算規模で組まれています。様々なところで春の訪れを感じられるようになりました。

今村知明

- 今村 知明(健康政策医学)
 - 植村 正人(医療安全推進室)
 - 笹平 智則(分子病理学)
 - 藤本 雅文(物 理 学)
 - 坂東 春美(地域看護学)
 - 堀口 陽子(看護部)
 - 岡 眞啓(研究推進課)
 - 永井 淳(教育支援課)
 - 吉田 一良(病院管理課)
 - 大野 達也(総務課)
 - 植松 聡(総務課)
- (○印は編集委員長)

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

加齢黄斑 kareiouhan.com ドットコム ご案内

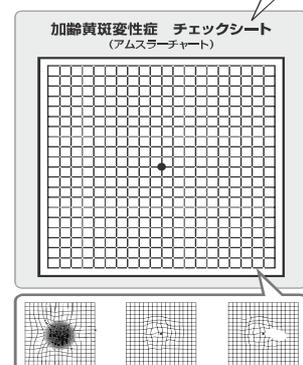
アクセスはこちらへ <http://www.kareiouhan.com/>

加齢黄斑ドットコム

検索

クリック

約 30cm 離して、眼鏡を掛けたまま、片眼ずつでご覧ください。



加齢黄斑ドットコムでは、一般の方や患者様に向けて、加齢黄斑変性症の疾患、症状、検査、治療および治療施設についてわかりやすく紹介しています。

上記のアムスラーチャートという格子状の図形を用いて加齢黄斑変性症の簡易的な検査ができます。

ノバルティス ファーマ株式会社

このページに広告を掲載しませんか? くわしくはこちら → <http://www.naramed-u.ac.jp/gakuho/>